坂城町埋蔵文化財調査報告書第46集

金井東遺跡群

大木久保遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

―長野県埴科郡坂城町　町立南条小学校改築事業に係る緊急発掘調査報告書―

2016.3

坂城町
坂城町教育委員会

金井東遺跡群

大木久保遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

―長野県埴科郡坂城町　町立南条小学校改築事業に係る緊急発掘調査報告書―

2016.3

坂城町
坂城町教育委員会

大木久保遺跡Ⅱ（北西より）

大木久保遺跡Ⅱ（上空より）

序

坂城町教育委員会教育長　宮崎　義也

今回発掘調査を実施した大木久保遺跡は、坂城町大字南条を西に流下する谷川によって形成された扇状地のほぼ扇央部に立地しています。本遺跡を包括する金井東遺跡群では、かつての発掘調査で縄文時代後・晩期の墓址や埋甕址、古墳～古代の集落址が確認されています。同遺跡群の中で最大の遺跡である保地遺跡では縄文時代後・晩期の遺構や遺物が多く発見され注目を集めました。南側に隣接する南条遺跡群の青木下遺跡では、古墳時代後期に属する環状に配列された土器群が検出され、全国的にも注目されています。北側に隣接する町横尾遺跡では縄文時代から平安時代の集落遺跡が発掘調査されました。このように、今回の発掘調査地点は坂城町の中でも遺跡の多く存在する場所であります。

今回の発掘調査では、弥生時代～平安時代の住居址が数多く発見されました。19棟調査された竪穴住居址からは、豊富な土器群が出土しました。これらは、煮炊き用の甕、配膳に供する土師器や須恵器の「坏」など、生活に必要な土器類が一そろいになっていました。また、古墳時代の始まり頃に作られた土器群が発見されたことにより、当地でも時代の変化がおとずれていたことが明らかになってきました。

最後に大木久保遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの発掘調査は、土中に眠る文化遺産の重要性を理解していただいた関係者の皆様方のご支援とご協力によって行うことができました。厚く御礼申し上げます。また、現地において作業にあたられた皆様には、献身的な努力と、古代文化解明へのゆるぎない情熱によって、調査を無事終了させていただいたことを感謝いたします。さらに、関係機関、関係各位には、文化財保護行政の本旨をご理解くださり、ご協力いただきましたことに心から御礼を申し上げ、序文とさせていただきます。

例　言

1　本書は、長野県埴科郡坂城町大木久保遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの発掘調査の報告書である。

2　大木久保遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの発掘調査は、坂城町教育委員会が実施した。

3　発掘調査所在地

　長野県埴科郡坂城町大字南条2036他

4　発掘調査期間と面積

大木久保遺跡Ⅰ	平成26年３月３日～平成26年３月31日	400㎡
大木久保遺跡Ⅱ	平成26年４月１日～平成26年６月６日	1,800㎡
大木久保遺跡Ⅲ	平成27年10月27日～平成27年12月10日	1,000㎡

　整理作業は、平成26・27年度に断続的に実施した。

5　本書の執筆・編集は、時信が行った。

6　本書の作成にあたり、時信のほか、朝倉、天田、坂巻、萩野が主な作業を行った。

7　本書で使用した航空写真は、株式会社写真測図研究所が撮影したものである。

8　本書及び調査に関する資料は、坂城町教育委員会の責任下において保管されている。

9　本調査及び本書作成にあたって、下記の方々や機関から御配慮を得た。記して感謝の意を表したい。

（敬称略、五十音順）

（社）更埴地域シルバー人材センター、坂城町立南条小学校

凡　例

1　遺構の略号は、下記のとおりである。

　SI→竪穴住居址　SD→溝状遺構　SK→土坑址　P→ピット

2　遺構名は、時代別ではなく発掘調査時においての命名順である。

3　本書に掲載した実測図の縮尺は該当箇所のスケールの上に記した。

4　挿図中におけるスクリーントーンは、下記を示す。

　遺構　▨→地山　▨→焼土　▨→カマド

　遺物　□→赤色塗彩範囲　▨→須恵器断面　▨→黒色処理範囲

5　遺物の挿図中での表記は、第１図１は、簡易的に１-１と表記した。

6　土層の色調は『新版　標準土色帖』の記載に基づいている。

7　出土遺物の観察表の法量は、口径・底径・器高の順に記載し、―は不明、（　）が残存値、＜　＞が推定値、（　）・＜　＞がない場合は完存値を示し、単位はcmである。

目　次

序
例　言
凡　例

第Ⅰ章　発掘調査の経緯……1
　第1節　発掘調査に至る動機と経緯……1
　第2節　調査の構成……2
　第3節　調査日誌……2

第Ⅱ章　遺跡の立地と環境……3
　第1節　地理的環境……3
　第2節　歴史的環境……3

第Ⅲ章　調査の概要……7
　第1節　調査の方法……7
　第2節　基本層序……8
　第3節　検出された遺構・遺物……8

第Ⅳ章　調査の結果……11
　第1節　竪穴住居址……11
　第2節　土坑址……41
　第3節　溝址……46
　第4節　その他の遺構・遺物……48

掲載土器観察表……49
掲載鉄器・石器観察表……51

第Ⅴ章　総括……52

写真図版……53
報告書抄録

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第１節　発掘調査に至る動機と経緯

大木久保遺跡は、坂城町大字南条に所在し、西方向に流下する谷川の扇状地の扇端付近、標高約415mに位置する。大木久保遺跡は第Ⅱ章でも触れる保地遺跡をはじめとして、山金井遺跡、酒玉遺跡の４遺跡がある。これらの遺跡の内、保地遺跡は発掘調査例があるが、本遺跡では縄文～平安時代の遺物が採集されているのみで調査例が少なく、遺跡の状況は不明であった。

今回、この地に坂城町による南条小学校改築が計画され、遺跡が破壊される恐れが生じた。そのため、原因者である坂城町と遺跡の保護措置について協議を行ったところ、試掘調査を実施して遺跡の状況を確認することとなり、平成25年10月15日～11月５日に試掘調査を実施した。開発対象地に11本のトレンチを設定して遺構・遺物の確認を行った結果、６箇所のトレンチで遺構が検出された。この結果を基に再度協議した結果、校舎建設部分とグラウンド造成部分に関しては発掘調査を実施し、遺跡を記録保存することとなった。

第１図　大木久保遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ位置図（１：25,000）

第2節　調査の構成

発掘調査体制

調査担当者　青木昌也・池田弥惣（文化財センター所長）、時信武史（坂城町教育委員会学芸員）

調査補助員　朝倉妙子、天田澄子、坂巻ケン子、萩野れい子（以上、町臨時職員）

調査協力員　秋元吉男、太田武夫、塚田義勝、中村文博、野田裕治、林嘉一（以上、公益社団法人更埴地域シルバー人材センター）

整理調査体制

調査担当者　時信武史

調査補助員　朝倉妙子、天田澄子、坂巻ケン子、萩野れい子（以上、町臨時職員）

（事務局）

教育長	宮崎義也
教育文化課長	柳澤博（～平成27年3月31日）
	宮下和久（平成27年4月1日～）
文化財センター所長	青木昌也（～平成27年3月31日）
	池田弥惣（平成27年4月1日～）
文化財係	時信武史
	赤池利博、中沢あつみ

第3節　調査日誌

発掘調査

平成26年3月4日	大木久保遺跡Ⅰ発掘調査開始。重機による表土剥ぎ開始。
平成26年3月5日	遺構掘り下げ開始。
平成26年3月31日	遺構掘り下げ終了。
平成26年4月1日	大木久保遺跡Ⅱ発掘調査開始。重機による表土剥ぎ開始。
平成26年4月3日	遺構掘り下げ開始。
平成26年5月27日	遺構掘り下げ終了。
平成26年5月28日	航空写真撮影。
平成26年6月6日	埋め戻し終了。
平成27年10月27日	大木久保遺跡Ⅲ発掘調査開始。重機によるトレンチ調査開始。
平成27年12月10日	トレンチ調査終了。

平成26・27年度中整理作業及び報告書作成。

第Ⅱ章　遺跡の立地と環境

第１節　地理的環境

坂城町は長野県の東信地方と北信地方の結節点に位置し、南は上田小県地域に接している。町の中央部を千曲川（信濃川）が日本海に向かって北流し、これに注ぎ込む河川によって形成された扇状地が散見される。千曲川左岸には北から岩井堂山、大林山（九竜山）、摺鉢山、三ツ頭山など800～1,100m級の山々が連なり、千曲市及び上田市との境を形成している。千曲川右岸には北から五里ヶ峯、鏡台山、鳩ヶ峯、大道山（堂叡山）、大峯山、太郎山、虚空蔵山など1,100～1,300m級の山々が千曲市及び上田市との境を形成している。南の上田市との境は鼠宿・下塩尻の岩鼻と下半過の岩鼻で狭隘な地形となっており、北の千曲市との境付近も幅が1.5kmほどしかなく、盆地地形を呈している。

扇状地が優位な地形であるので、かつては桑栽培がおこなわれ養蚕業が発達した。戦後になって、本州でも有数の降雨量の少ない気候を活かして、りんごやブドウの栽培に転換されている。現在では工業が町の主要産業になっており、約250社の企業が集積している。

第２節　歴史的環境

坂城町の各時代について、主要な遺跡に触れながら概説する。なお、遺跡名の後に附した番号は第２図の坂城町遺跡分布図の番号に対応している。

旧石器時代の遺構は確認されていないが、南条地区の保地遺跡（３－１）から採集された石器が上ヶ屋型彫刻器とされ、およそ14,000～15,000年前の後期旧石器時代のものと考えられている。また、坂城地区の込山Ｄ遺跡（30－４）で発見された尖頭器も旧石器時代のものと考えられている。

縄文早期の遺跡は、坂城地区の和平Ａ遺跡（36－１）や平沢遺跡（35）が知られ、押型紋土器片が採集されているが詳細は不明である。前期の遺跡では、南条地区の町横尾遺跡（６）で当該期の住居址が発掘調査され、土器や石器がまとまって出土した。このほか、込山Ｃ遺跡（30－３）でも前期に属する土器片が出土しているが未報告である。中期になると込山遺跡群（30）をはじめ、南条の金井遺跡（２－１）など町内各所で土器片などが採集されている。特に込山Ｃ遺跡では昭和36年に、炭や灰に覆われた敷石の下から３点の土器が埋納された状態で発見された。この敷石遺構は火をたいた痕跡や遺存した獣骨及び石器の存在から特殊な遺構であったことが考えられている。後期・晩期では保地遺跡が卓越している。保地遺跡は昭和40年と平成11年度に発掘調査が行われた。昭和40年の発掘調査では、下顎２本の犬歯を抜歯した成人男性の完全な頭骨のみが、鹿、猪、犬等の獣骨や多くの土器・石器と共に存在したことから、特殊な人物の特殊な儀礼的行為の存在が推測された。平成11年度に行われた発掘調査では、縄文時代後期・晩期における多様な埋葬状況が確認された。

弥生時代前期の調査例はない。中期では込山Ｄ遺跡で当該期の住居址が発掘調査されたが、出土品の点数が少なく詳細は不明である。後期になると、平成５年度に発掘調査された南条地区の塚田遺跡（１－７）が挙げられる。この調査では弥生時代後期に属する竪穴住居址が36棟も検出され、内部からは多くの土器が出土した。このほか、石包丁の制作過程が復元できる未製品や、鉄斧が出土したことから、稲作を主な生業とする集団が居住していたことが推察される。

現在のところ、前期に属する古墳は確認されていない。込山Ｄ遺跡や大木久保遺跡（３－３）では古墳時

代前期に属する住居址が発掘調査された。中期に属する古墳は上信越自動車道建設に先立って平成５年に行われた発掘調査で確認され、埴輪や土器などの出土品から５世紀中ごろと判断された。木棺直葬の小規模な古墳である。周知の御堂川古墳群東平支群（18）と距離が離れているため、「仮称東平１号墳・２号墳」とされている。後期になると、町内各所で群集墳が営まれるようになり、御堂川古墳群（14・16・17・18・19）、谷川古墳群（10）、出浦沢古墳群（45）などをあげることができる。いずれも緩やかな傾斜地に展開する典型的な後期～終末期にかけての群集墳である。福沢古墳群（47）に含まれる御厨社古墳（47-１）は千曲川流域最大級の横穴式石室で、全長11.2mを測る。勾玉や切子玉、金環が採集されている。古墳時代後期の集落址は町内各所で確認されている。特筆されるのは南条地区の青木下遺跡（１-８）で発掘調査された、土器を環状に配置した祭祀遺構である。

古代にはいると、中之条地区で数多くの住居址が確認されている。特に寺浦遺跡（８-１）では、掘立柱建物が濃密に分布しており、地域の中心的な役割を担う施設が存在していたことが考えられる。込山廃寺跡（54）は、平安時代初頭に現在の坂城小学校の場所に建立された礎石建て瓦葺の寺院である。この寺の瓦を焼いたのが土井ノ入窯跡（32）で、上田市の信濃国分寺・尼寺及び千曲市の正法廃寺で補修時に使われた瓦もここで焼かれたものであることが指摘されている。信濃村上氏の祖である源盛清が寛治８年（嘉保元）（1094）年に村上地区に配流の後、子孫は土着して有力豪族として成長していった。このころ居住したのが島遺跡（46）に内包される村上氏館跡（80）である。元中年間に坂城地区に葛尾城（44）を築いて移転したと伝わるが詳細は定かではない。葛尾城は堅固な城郭で、居館の村上氏館跡（38）は、山麓の現在の満泉寺の場所に築かれた。観音平経塚（55）は、14世紀中ごろから16世紀前半頃まで営まれた墳墓及び五輪塔群である。終期が16世紀前半ごろであることを考えると、村上氏と消長を同じくしたものとも思われる。中之条地区の開畝製鉄遺跡（53）は昭和52・53年に発掘調査が行われ、２基の製鉄炉址が確認された。

江戸時代になると、幕府によって北国街道（90）が整備され、坂木村に宿場が形成された。宿場をはじめ街道筋の村々の多くは大名領地を経た後幕府領となり、坂木に代官所（61）がおかれた。中野陣屋等の出張陣屋となった後の明和４年（1767）に焼失し、安永７年（1778）に中之条村に代官所（67）が再びおかれた。慶応４年（1868）に明治新政府により廃止され、尾張藩の取締役所となり、同年伊那県中之条局となる。

以上が近代にいたるまでの坂城町の歴史の概要である。

参考文献（五十音順）

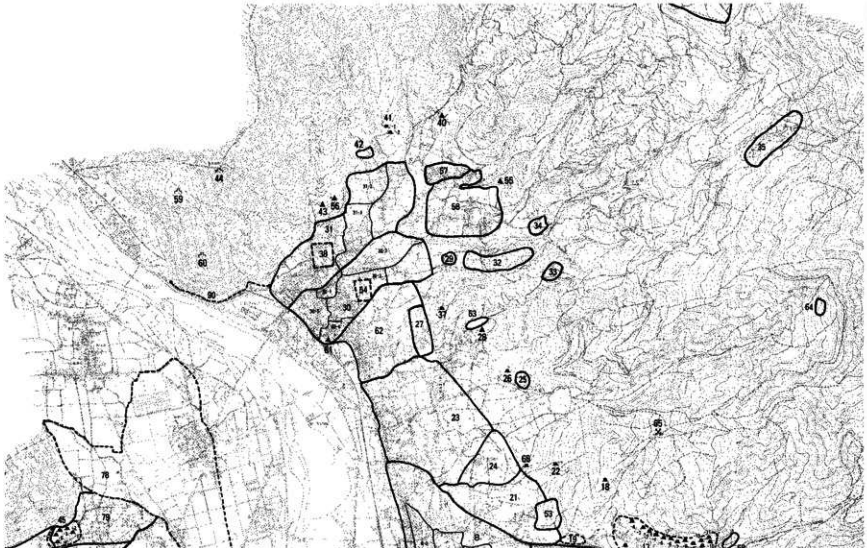
（財）長野県埋蔵文化財センター　2011『主要地方道長野上田線力石バイパス建設事業　埋蔵文化財発掘調査報告書２』―坂城町内―上五明条里水田址

坂城町教育委員　1978『開畝製鉄遺跡―第１次調査報告』 1979『開畝製鉄遺跡―第２次調査報告』 1996『寺浦遺跡Ⅱ』 2001『宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』 2002『保地遺跡Ⅱ』 2007『込山Ｄ遺跡』 2008『開畝遺跡Ⅳ』 2008『町横尾遺跡Ⅱ』 2009『上町遺跡Ⅳ・Ⅴ』 2010『寺浦遺跡Ⅳ』

森嶋　稔ほか　1981『坂城町誌』中巻　歴史編（一）

柳沢　亮　1998『第５節　開畝遺跡』『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書２』（財）長野県埋蔵文化財センター

若林　卓　1999『第９章　東平古墳群』『第11章　観音平経塚』『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書21』（財）長野県埋蔵文化財センター



坂城町遺跡分布図

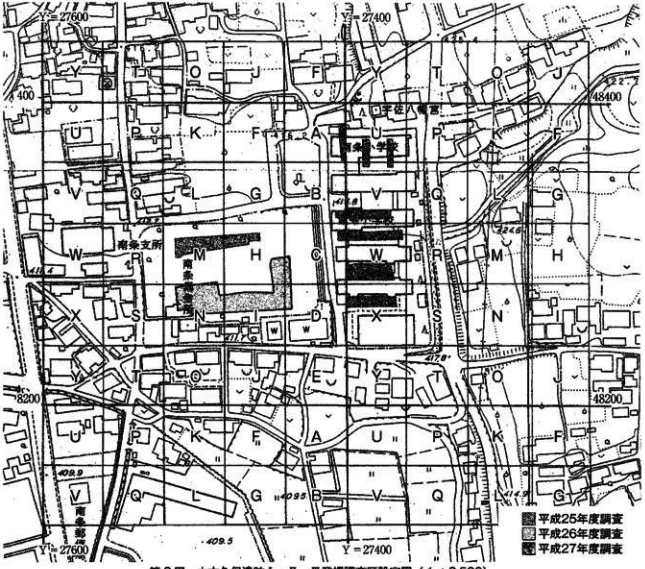
図面番号	遺跡名	種別	時代
1	南条遺跡群	集落址	弥生～平安
−1	南条遺跡群 東裏遺跡	集落址	弥生～平安
−2	南条遺跡群 御殿表遺跡（屋敷）	集落址	弥生～平安
−3	南条遺跡群 百々目利遺跡	集落址	弥生～平安
−4	南条遺跡群 中町遺跡（新地）	集落址	弥生～平安
−5	南条遺跡群 田町遺跡	集落址	弥生～平安
−6	南条遺跡群 裂り目遺跡	集落址	弥生～平安
−7	南条遺跡群 畑田遺跡（田端）	集落址	弥生～平安
−8	南条遺跡群 菅木下遺跡	水田址、祭祀跡	弥生～平安
2	金井西遺跡群	集落址	縄文～平安
−1	金井西遺跡群 金井遺跡	集落址	縄文～平安
−2	金井西遺跡群 社宮神遺跡（金井西）	集落址	縄文～平安
−3	金井西遺跡群 宿木下遺跡	集落址	縄文～平安
3	金井東遺跡群	集落址	縄文～平安
−1	金井東遺跡群 保地遺跡	集落址	縄文～平安
−2	金井東遺跡群 山金沢遺跡	集落址	縄文～平安
−3	金井東遺跡群 大木久保遺跡（南条小学校敷地）	集落址	縄文～平安
−4	金井東遺跡群 酒王遺跡	集落址	縄文～平安
4	栗ヶ谷古墳	古墳	古墳
5	社宮神経塚	経塚	中世
6	町横尾遺跡	散布地	縄文～平安
7	北畑古墳	古墳	古墳（後期）
8	中之条遺跡群	集落址	縄文～平安
−1	中之条遺跡群 寺浦遺跡	集落址	縄文～平安
−2	中之条遺跡群 上町遺跡	集落址	弥生～平安
−3	中之条遺跡群 東町遺跡	集落址	弥生～平安
−4	中之条遺跡群 北浦遺跡	集落址	縄文～平安
−5	中之条遺跡群 宮上遺跡	集落址	縄文～平安
−6	中之条遺跡群 石川原遺跡	集落址	縄文～平安
9	熊海堀穴古墳（御穴古墳）	古墳	古墳（後期）
10	谷川古墳群	古墳	古墳（後期）
−1	谷川古墳群 入横尾支群 向田古墳	古墳	古墳（後期）
−2	谷川古墳群 入横尾支群 刈塚古墳	古墳	古墳（後期）
11	入横尾遺跡	散布地	平安
12	谷川古墳群 上原支群	古墳	古墳（後期）
13	鶴塚墳墓群	墳墓	中世～近世
14	御堂川古墳群 山口支群	古墳	古墳（後期）
15	山崎遺跡	散布地	縄文
16	御堂川古墳群 山崎支群	古墳	古墳（後期）
17	御堂川古墳群 鉢山支群	古墳	古墳（後期）
−1	御堂川古墳群 鉢山１号墳	古墳	古墳（後期）
−2	御堂川古墳群 鉢山２号墳	古墳	古墳（後期）
−3	御堂川古墳群 鉢山３号墳	古墳	古墳（後期）
−4	御堂川古墳群 鉢山４号墳	古墳	古墳（後期）
−5	御堂川古墳群 鉢山５号墳	古墳	古墳（後期）
−6	御堂川古墳群 鉢山６号墳	古墳	古墳（後期）
−7	御堂川古墳群 鉢山７号墳	古墳	古墳（後期）
−8	御堂川古墳群 鉢山８号墳	古墳	古墳（後期）
−9	御堂川古墳群 鉢山９号墳	古墳	古墳（後期）
−10	御堂川古墳群 鉢山10号墳	古墳	古墳（後期）
−11	御堂川古墳群 鉢山11号墳	古墳	古墳（後期）
−12	御堂川古墳群 鉢山12号墳	古墳	古墳（後期）
−13	御堂川古墳群 鉢山13号墳	古墳	古墳（後期）
−14	御堂川古墳群 鉢山14号墳	古墳	古墳（後期）
18	御堂川古墳群 東平支群 二幡古墳	古墳	古墳（後期）
19	御堂川古墳群 山田支群	古墳	古墳（後期）
20	鼎鎮堂遺跡（山崎北遺跡）	集落址	縄文～弥生
21	開蛇遺跡	集落	弥生～平安
22	人塚古墳	古墳	古墳（後期）
23	四ツ屋遺跡群	集落址	縄文～平安
24	皮久保遺跡	集落址	古墳～平安
25	入田遺跡	散布地	弥生～平安
26	堀内古墳（御所沢古墳）	古墳	古墳（後期）
27	金比羅山遺跡	散布地	縄文～平安
28	蓮平経塚	経塚	中世
29	岡の原窯跡	窯跡	平安
30	込山遺跡群	集落址	縄文～平安
−1	込山遺跡群 込山Ａ遺跡（水上）	集落址	縄文～平安
−2	込山遺跡群 込山Ｂ遺跡（社宮神）	集落址	縄文～平安
−3	込山遺跡群 込山Ｃ遺跡（込山）	集落址	縄文～平安
−4	込山遺跡群 込山Ｄ遺跡（横町）	集落址	縄文～平安
−5	込山遺跡群 込山Ｅ遺跡（立町）	集落址	縄文～平安
31	日名沢遺跡群	集落址	弥生～平安
−1	日名沢遺跡群 日名沢遺跡	集落址	弥生～平安
−2	日名沢遺跡群 丸山遺跡	集落址	弥生～平安
32	土井ノ入窯跡	窯跡	奈良～平安
33	平林遺跡	散布地	縄文
34	堺外遺跡	窯跡	平安
35	平沢遺跡	散布地	縄文
36	和平遺跡群	集落址、散布地	縄文～平安
−1	和平遺跡群 和平Ａ遺跡	集落址	縄文～平安
−2	和平遺跡群 和平Ｂ遺跡	散布地	弥生
−3	和平遺跡群 和平Ｃ遺跡	散布地	平安
37	金比羅山古墳	古墳	古墳（後期）
38	村上氏城跡	城館跡	中世
39	馬の首遺跡	散布地	縄文
40	北日名経塚	経塚	中世
41	北日名横穴古墳群	古墳	古墳（後期）
−1	北日名横穴１号墳	古墳	古墳（後期）
−2	北日名横穴２号墳	古墳	古墳（後期）
42	梅ノ木遺跡	散布地	縄文
43	猪田窯跡	窯跡	奈良
44	高尾城跡	城館跡	中世
45	出浦沢古墳群	古墳	古墳（後期）
−1	出浦沢古墳群 出浦支群１号墳	古墳	古墳（後期）
−2	出浦沢古墳群 出浦支群２号墳	古墳	古墳（後期）
−3	出浦沢古墳群 出浦支群３号墳	古墳	古墳（後期）
−4	出浦沢古墳群 出浦支群４号墳	古墳	古墳（後期）
−5	出浦沢古墳群 出浦支群５号墳	古墳	古墳（後期）
−6	出浦沢古墳群 鼎支群１号墳	古墳	古墳（後期）
−7	出浦沢古墳群 鼎支群２号墳	古墳	古墳（後期）
46	島遺跡	集落址	弥生～平安
47	福沢古墳群	古墳	古墳（後期）
−1	福沢古墳群 小野沢支群１号墳（御厨社古墳）	古墳	古墳（後期）
−2	福沢古墳群 小野沢支群２号墳	古墳	古墳（後期）
−3	福沢古墳群 小野沢支群３号墳（ヤックラ古墳）	古墳	古墳（後期）
−4	福沢古墳群 小野沢支群４号墳	古墳	古墳（後期）
48	小野沢遺跡	集落址	弥生～平安
49	福沢古墳群 越堂支群	古墳	古墳（後期）
50	福泉寺裏古墳	古墳	古墳（後期）
51	狐落城跡	城館跡	中世
52	三水城跡	城館跡	中世
53	開蛇新換遺跡	散布地	中世
54	込山奥寺跡	寺院跡	平安
55	観音平経塚	経塚	中世
56	熊田小路冶跡	製鉄跡	中世
57	堀之原遺跡	集落址	奈良～平安
58	南日名遺跡	集落址	弥生～平安
59	高尾城標小屋跡	城館跡	中世
60	城城跡	城館跡	中世
61	坂本代官所跡	屋敷跡	近世
62	田町遺跡群	散布地	古墳～平安
63	御所沢墳墓群	墳墓	中世
64	畳平窯跡	窯跡	平安
65	中之条石切場跡	採掘跡	近世
66	結沢古墳	古墳	古墳（後期）
67	中之条代官所跡	屋敷跡	近世
68	帆崎窯跡	窯跡	平安
69	観音坂城跡	城館跡	中世
70	間瀬の川遺跡（宮祥寺跡）	散布地寺院跡	奈良～中世
71	口留番所跡	屋敷跡	近世
72	和合城跡	城館跡	中世
73	高ツ城跡	城館跡	中世
74	虚空蔵山城跡	城館跡	中世
75	地蔵沢貴金属採掘跡	採掘跡	近世
76	観音遺跡	散布地	平安
77	出浦城跡	城館跡	中世
78	上五明浜埋水田址	水田址	平安～近世
79	出浦遺跡	集落址	縄文～平安
80	村上氏館跡	城館跡	中世
81	福沢氏居館跡	城館跡	中世
82	小野沢窯跡	窯跡	奈良～平安
83	福沢古墳群	古墳	古墳（後期）
−1	福沢古墳群 五狭支群１号墳	古墳	古墳（後期）
−2	福沢古墳群 五狭支群２号墳	古墳	古墳（後期）
−3	福沢古墳群 五狭支群３号墳	古墳	古墳（後期）
84	荒堀遺跡	集落址	縄文～平安
85	網掛塔遺跡	集落址	縄文～平安
86	解紀跡	解紀跡	平安
87	鳥角銅鉱採掘跡	採掘跡	近代
88	鳥マンガン鉱採掘跡	採掘跡	近代
89	上平青銅鉱採掘跡	採掘跡	近代
90	横吹太郎街道跡	街道跡	近世

第Ⅲ章　調査の概要

第１節　調査の方法

本遺跡の調査では、調査区の遺構・遺物の正確な位置を記録でき、なお、将来的に周辺で実施される遺跡の発掘調査での遺構・遺物の調査にも整合できるように、平成14年４月施行の世界測地系2000の座標軸を基にグリッドを組んだ。

グリッドについては、200m×200mの大グリッドを設け区画を行い、その中を40m×40mに25等分した中グリッドを設定（第３図）し、北東端より「A・B・C…Y」区とアルファベットの大文字で命名した。本調査ではC・D・H・I・M・N区が発掘調査の対象グリッドである。また、その中グリッドを４m×４mの小グリッドで100区画に分割し、南北列を北から算用数字で「１・２・３…10」、東西列を東から五十音順で「あ・い・う…こ」と呼称することとした。例えば、その中の北東交点を「Oグリッド」というように命名し、調査に係るグリッドの呼称は例えば「Oあ１グリッド」とし、遺物の取り上げや遺構図の作成の基準とした。また、発掘調査における遺構の実測は、基本的に１／20を基準として簡易遣り方実測にて行った。

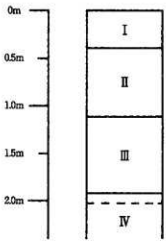


第３図　大木久保遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ発掘調査区設定図（１：2,500）

第２節　基本層序

本調査区の基本層序は右図に柱状図を示したとおりである。Ⅰ層はグラウンド整地層である。Ⅱ層は校地造成土層である。Ⅲ層は黒褐色を基調とする堆積層である。Ⅳ層は黄褐色を基調とする地山層である。

以上が本調査区の基本層序であるが、校地造成土層は場所によって厚さが異なった。



Ⅰ　グラウンド整地層
Ⅱ　造成土層。
Ⅲ　黒褐色土層（10YR2/3）
　　砂礫を含む。堆積層。
Ⅳ　黄褐色土（10YR5/6）
　　砂礫土。地山層。

第４図　基本層序模式図

第３節　検出された遺構・遺物

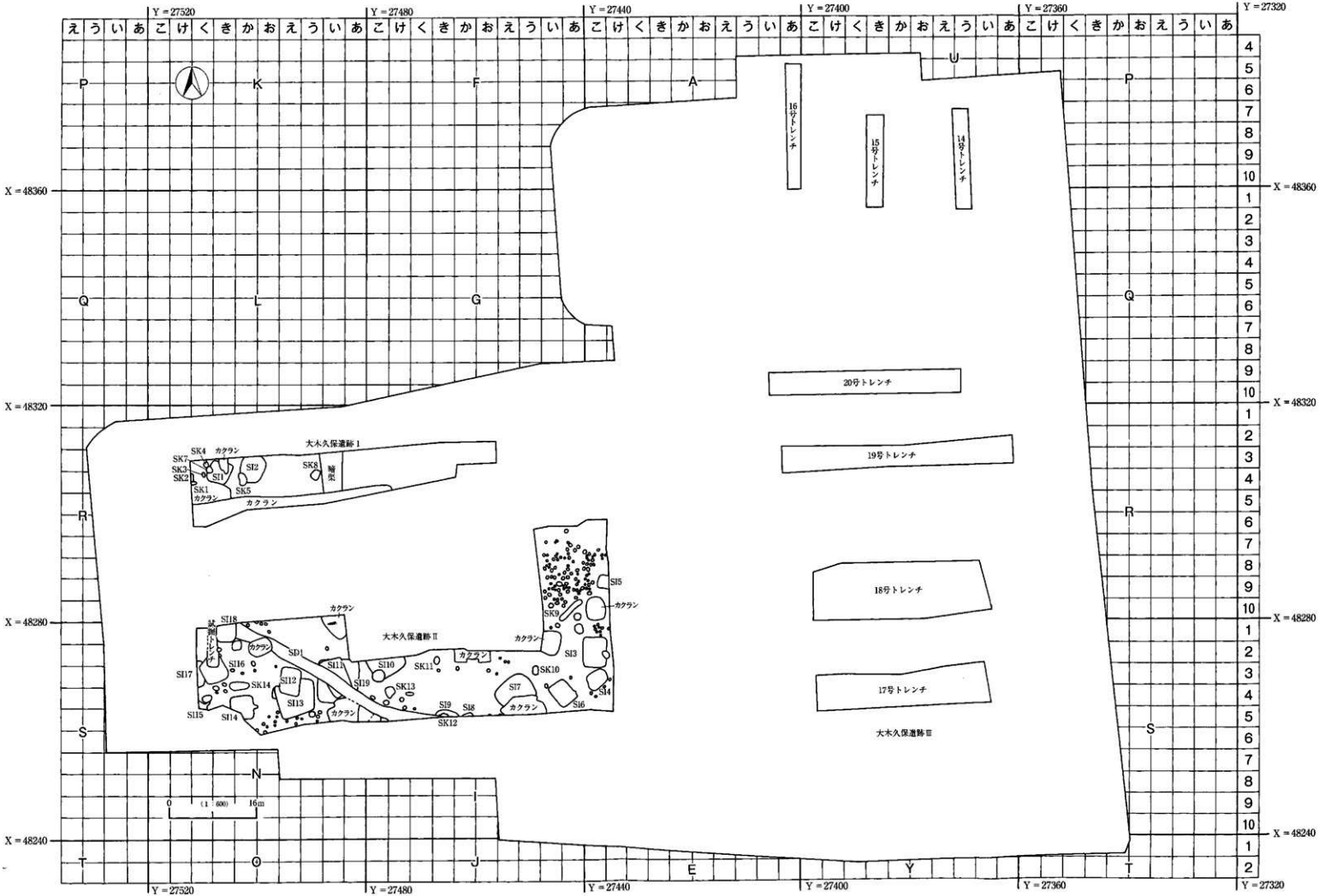
本調査によって検出された遺構・遺物は以下のとおりである。なお、大木久保遺跡Ⅲでは、遺構は検出されなかった。

遺構）

弥生時代	竪穴住居址	３棟
古墳時代	竪穴住居址	８棟
奈良・平安時代	竪穴住居址	５棟
	溝址	１条
時期不明	竪穴住居氏	３棟
	土坑址	13基

遺物）

縄文時代	土器・石器・土製品
弥生時代	土器
古墳時代	土師器・須恵器・鉄器 石製品
奈良・平安時代	土師器・須恵器



第5図　大木久保Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺構配置図（1：600）

第Ⅳ章　調査の結果

第１節　竪穴住居址

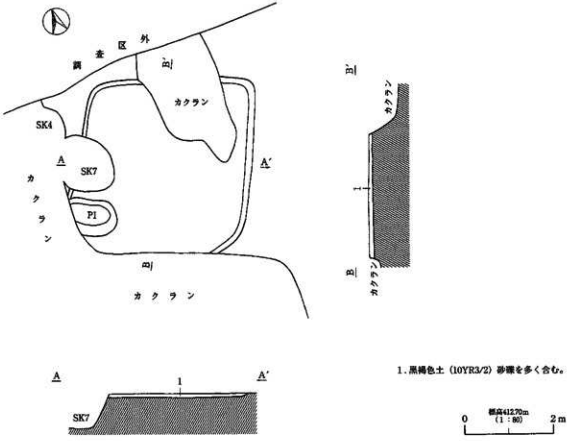
(1)　１号住居址

遺構（第６図）

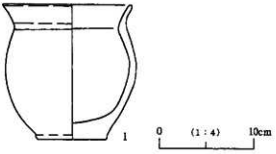
検出位置：Mき３、Mき４、Mく３、Mく４グリッド。**重複関係**：北側と南側を攪乱に切られている。西側を７号土坑に切られている。**平面形態**：攪乱に切られており詳細は不明であるが、概ね3.9m×3.9mの隅丸方形を呈しているものと思われる。主軸方位はN-21°-Eを指す。**覆土**：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。**炉址**：検出されなかった。**床面の状況**：概ね平坦であった。地山を掘り込んで床面を形成していた。**ピット**：西側の床面において１基のピットが確認された。用途などは判然としない。**遺物出土状況**：住居址の覆土下層から少量出土した。**柱穴**：本住居址では柱穴は確認できなかった。

遺物（第７図、第１表）

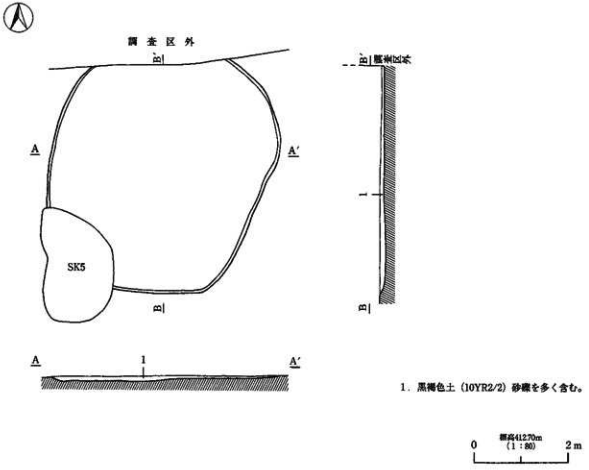
7-1は土師器甕である。内外面ともにナデ調整が行われているが、摩耗しており判然としない。**時期**：出土遺物から、古墳時代後期頃の所産と思われる。



第６図　１号住居址実測図



第７図　１号住居址出土遺物実測図



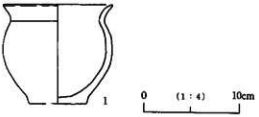
第８図　２号住居址実測図

(2)　２号住居址

遺構（第８図）

検出位置：Mお３、Mお４、Mか３、Mか４グリッド。**重複関係**：北側が調査区外未検出のため詳細は不明である。南西側を５号土坑に切られている。**平面形態**：調査区外未検出のため詳細は不明であるが、5.1m

×4.5m程度の隅丸方形を呈しているものと思われる。主軸方位はN-17°-Eを指す。覆土：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。炉・カマド：検出されなかった。床面の状況：概ね平坦であった。地山を掘り込んで床面を形成していた。ピット：床面及び掘り方底面においてピット等は確認されなかった。遺物出土状況：住居址の覆土下層から少量の遺物が出土した。柱穴：本住居址では柱穴は確認されなかった。



第９図　２号住居址出土遺物実測図

遺物（第９図、第１表）

9-1は土師器甕である。内外面ともにヘラナデ調整が行われているが、摩耗しており判然としない。時期：出土遺物や住居址の形態から古墳時代後期頃の所産と思われる。

(3)　３号住居址

遺構（第10図）

検出位置：Dこ１、Dこ２、Dこ３、Ｉあ３、Ｉあ２、Ｉあ３グリッド。**重複関係**：東側と住居址内の一部を撹乱に切られている。平面形態：概ね5.7m×4.3mの隅丸方形を呈している。主軸方位はN-0°-Wを指す。覆土：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。炉址：住居址中央付近の床面において３ヶ所の焼土範囲を確認した。焼土は赤化していたが硬化はしておらず、脆弱なものであった。床面の状況：概ね平坦であった。地山を掘り込んで床面を形成していた。北側では地山を棚状に掘り残した状況が確認できた。ピット：床面において９基のピットが確認された。浅い掘り込みで、用途などは判然としない。遺物出土状況：住居址の覆土下層から少量の遺物が出土した。柱穴：今回の調査では柱穴は確認できなかった。

遺物（第11図、第１表）

11-1は壺である。内外面ともにナデ調整が行われており、僅かに赤色塗彩の痕跡が残る。時期：出土遺物や住居址の形態から弥生時代後期頃の所産と思われる。

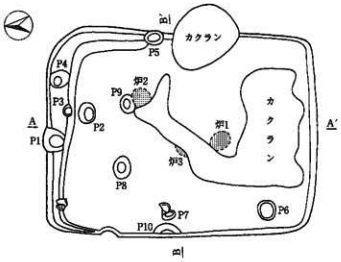
(4)　４号住居址

遺構（第12図）

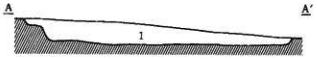
検出位置：Dこ３、Dこ４グリッド。**重複関係**：なし。平面形態：概ね3.9m×3.3mの楕円形を呈している。主軸方位はN-58°-Eを指す。覆土：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。炉址：住居址中央付近の床面において１ヶ所の焼土範囲を確認した。焼土は赤化していたが硬化はしておらず、脆弱なものであった。床面の状況：概ね平坦であった。地山を掘り込んで床面を形成していた。ピット：床面において、10基のピットが確認された。南側に集中する傾向があるが、用途などは判然としない。遺物出土状況：住居址の覆土上・中層からも少量は出土したが、ほとんどの遺物は下層からの出土であった。柱穴：今回の調査では柱穴は確認できなかった。

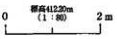
遺物（第13図、第１表）

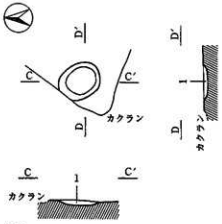
13-1は高坏の脚部である。内外面ともヘラミガキが施され、外面には赤色塗彩が施されている。四方向に透かし孔が開けられている。２は壺である。外面はヘラミガキが、内面はヘラケズリが施されている。



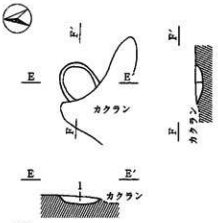
1．黒褐色土（10YR2/3）焼土粒、炭化粒を微量、砂礫を含む。



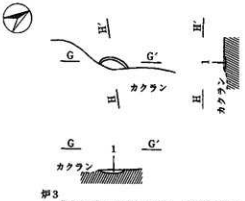




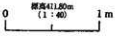
炉1
1．褐色土（10YR4/4）焼土粒、炭化粒を含む。



炉2
1．褐色土（10YR4/4）焼土粒、炭化粒を含む。

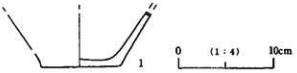


炉3
1．褐色土（10YR4/4）焼土粒、炭化粒を含む。

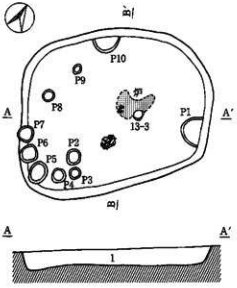


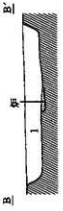
第10図　3号住居址・炉実測図

3・4は甕で口縁部から胴部にかけて櫛描き波状文を施しており、3の頸部には櫛描き簾状文が施されている。時期：出土遺物や住居址の形態から弥生時代後期頃の所産と思われる。

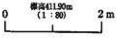


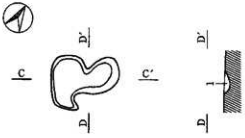
第11図　3号住居址出土遺物実測図



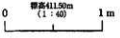


1．暗褐色土（10YR3/3）砂礫を含む。

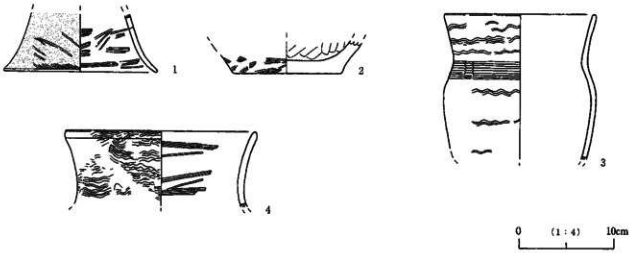




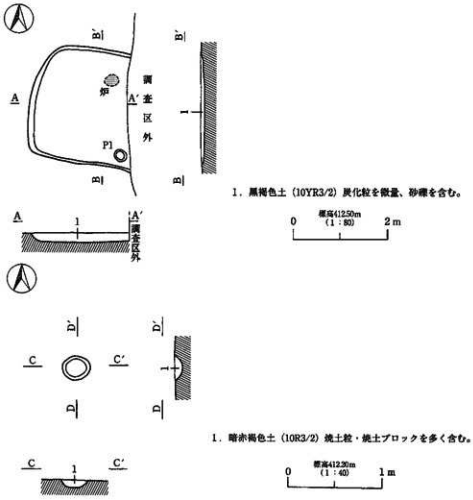
1．褐色土（10YR4/4）焼土粒を多く含む。



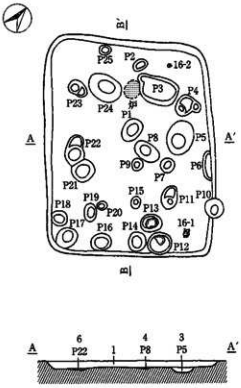
第12図　4号住居址・炉実測図

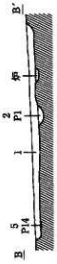


第13図　4号住居址出土遺物実測図

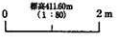


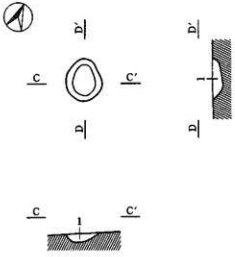
第14図　5号住居址・炉実測図



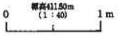


1. 黒褐色土（10YR2/2）粘質土。炭化粒を微量、砂礫を含む。
2. 黒褐色土（10YR2/3）粘質土。（P1）
3. 黒褐色土（10YR2/3）粘質土。（P5）
4. 黒褐色土（10YR2/3）粘質土。（P8）
5. 黒褐色土（10YR2/3）粘質土。（P14）
6. 黒褐色土（10YR2/3）粘質土。（P22）

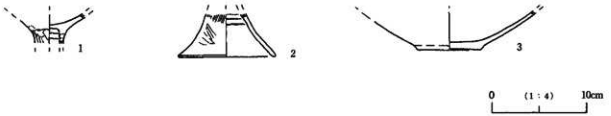




1. 褐色土（10YR4/4）炭化粒・焼土粒を含む。



第15図　6号住居址・炉実測図



第16図　6号住居址出土遺物実測図

(5)　5号住居址

遺構（第14図）

検出位置：Ｃこ８、Ｃこ９グリッド。**重複関係**：北側が調査区外未検出のため詳細は不明である。**平面形態**：調査区外未検出のため詳細は不明であるが、2.4m×2.4m程度の小規模な隅丸方形を呈しているものと思われる。**主軸方位**はN－8°－Eを指す。**覆土**：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。**炉址**：住居址北側の床面において１ヶ所の焼土範囲を確認した。焼土はわずかに赤化していただけで硬化はしておらず、極めて脆弱なものであった。**床面の状況**：概ね平坦であった。地山を掘り込んで床面を形成していた。**ピット**：床面において１基のピットを確認したが、用途などは判然としない。**遺物出土状況**：遺物は住居址覆土中から少量出土した。**柱穴**：今回の調査では柱穴は確認できなかった。**遺物**：図示しえる遺物は出土しなかった。**時期**：時期は不明である。

(6)　6号住居址

遺構（第15図）

検出位置：Ｉあ３、Ｉあ４、Ｉい３、Ｉい４グリッド。**重複関係**：なし。**平面形態**：概ね4.6m×3.6mの隅丸方形を呈している。**主軸方位**はN-41°-Wを指す。**覆土**：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。**炉址**：住居址北側の床面において１ヶ所の焼土範囲を確認した。焼土は赤化していたが硬化はしておらず、脆弱なものであった。**床面の状況**：概ね平坦であった。地山を掘り込んで床面を形成していた。**ピット**：床面において、25基のピットが確認された。南側が多い傾向があるが、用途などは判然としない。**遺物出土状況**：住居址の覆土下層から少量の遺物が出土した。**柱穴**：今回の調査では柱穴は確認できなかった。

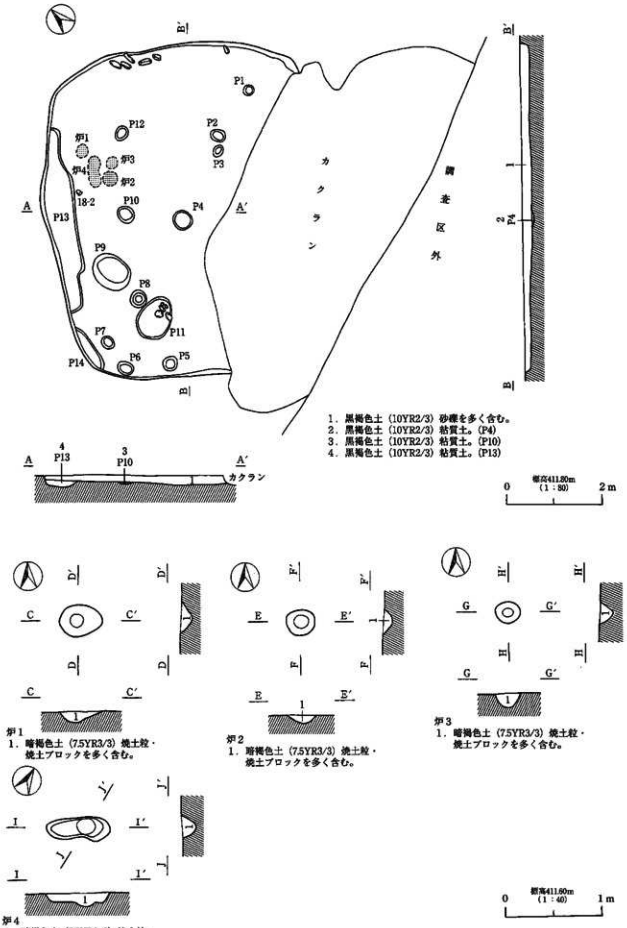
遺物（第16図、第１表）

16-１・２は高坏である。３は壺の底部である。３点ともに表面は磨滅している。**時期**：出土遺物や住居址の形態から弥生時代後期頃の所産と思われる。

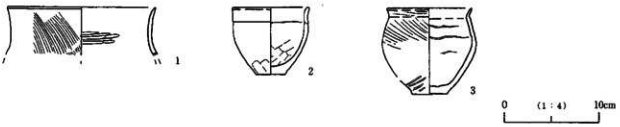
(7)　7号住居址

遺構（第17図）

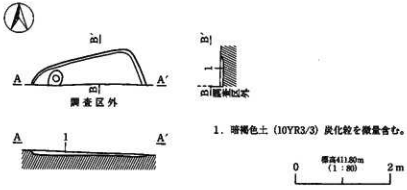
検出位置：Ｉう３、Ｉう４、Ｉえ３、Ｉえ４、Ｉお４グリッド。**重複関係**：南側を攪乱に切られている。**平面形態**：南側を攪乱で切られているため詳細は不明であるが、長軸約6.8mの隅丸方形を呈している。**主軸方位**はN-49°-Eを指す。**覆土**：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。**炉址**：住居址北側の床面において４ヶ所の焼土範囲を確認した。炉１～３の焼土は赤化していたが硬化はしておらず、脆弱なものであった。炉４は火床面が硬化していた。**床面の状況**：概ね平坦であった。地山を掘り込んで床面を形成していた。ピ



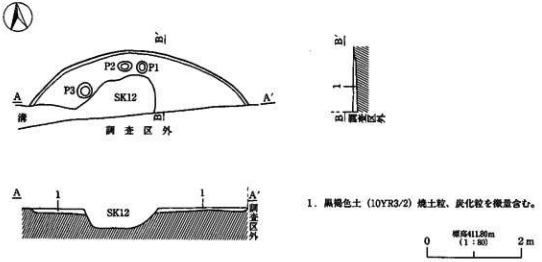
第17図　7号住居址・炉実測図



第18図　7号住居址出土遺物実測図



第19図　8号住居址実測図



第20図　9号住居址実測図

ット：床面において15基のピットが確認された。用途は判然としない。**遺物出土状況**：住居址の覆土下層から少量出土した。**柱穴**：今回の調査では柱穴は確認できなかった。

遺物（第18図、第１表）

18-１は土師器壺である。２は粗製の甕である。３は甕である。**時期**：出土遺物や住居址の形態から古墳時代後期頃の所産と思われる。

(8)　８号住居址

遺構（第19図）

検出位置：Ｉか５グリッド。**重複関係**：南側が調査区外未検出のため詳細は不明である。**平面形態**：南側が調査区外未検出のため詳細は不明であるが、小規模な隅丸方形を呈するものと思われる。**覆土**：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。**カマド**：検出されなかった。**床面の状況**：概ね平坦であった。地山を掘り込んで床面を形成していた。**ピット**：床面において１基のピットが確認された。用途などは判然としない。**遺物出土状況**：遺物は住居址覆土の下層から少量出土した。**柱穴**：今回の調査では柱穴は確認できなかった。**遺物**：図示しえる遺物は出土しなかった。**時期**：時期は不明である。

(9)　９号住居址

遺構（第20図）

検出位置：Ｉか５、Ｉき５グリッド。**重複関係**：１号溝址と12号土坑に切られる。南側が調査区外未検出のため詳細は不明である。**平面形態**：調査区外未検出のため詳細は不明である。**覆土**：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。**カマド**：検出されなかった。**床面の状況**：概ね平坦であった。地山を掘り込んで床面を形成していた。**ピット**：床面において、３基のピットが確認された。用途などは判然としない。**遺物出土状況**：遺物は住居址覆土の下層から少量出土した。**柱穴**：今回の調査では柱穴は確認できなかった。**遺物**：図示しえる遺物は出土しなかった。**時期**：時期は不明である。

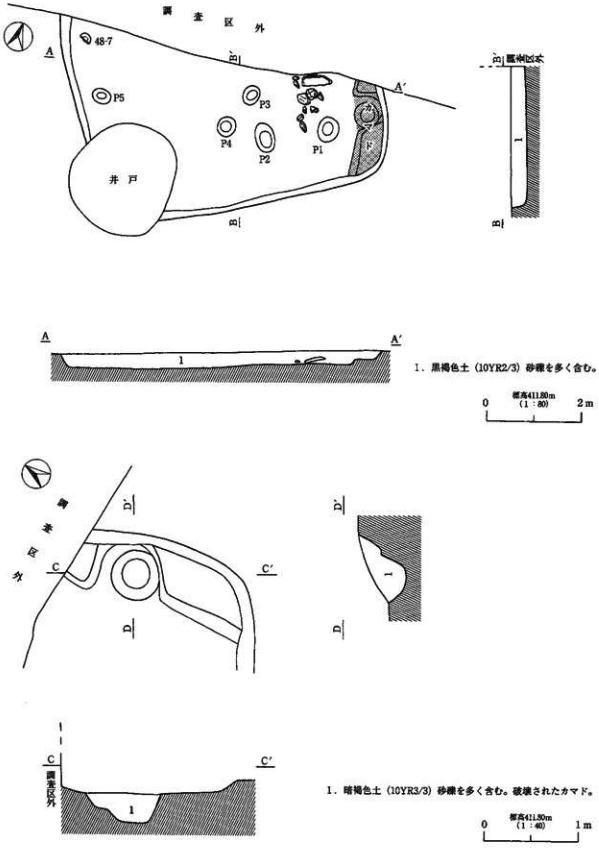
(10)　10号住居址

遺構（第21図）

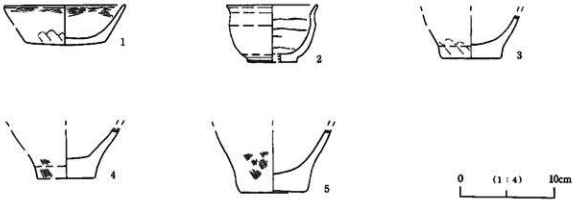
検出位置：Ｉけ２、Ｉけ３、Ｉこ２、Ｉこ３グリッド。**重複関係**：北側が調査区外未検出のため詳細は不明である。南側を攪乱に切られている。**平面形態**：調査区外未検出のため詳細は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位はN-28°-Wを指すものと思われる。**覆土**：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。**カマド**：住居址の東側から検出された。住居廃絶時に解体されたものと思われ、カマド掘方周辺に石材が散乱した状態であった。**床面の状況**：概ね平坦であった。地山を掘り込んで床面を形成していた。**ピット**：床面において、５基のピットが確認された。用途などは判然としない。**遺物出土状況**：住居址の覆土上・中層からも少量は出土したが、ほとんどの遺物は下層からの出土であった。**柱穴**：今回の調査では柱穴は確認できなかった。

遺物（第22図、第１表）

22-１は土師器坏で、内外面ともにヘラミガキが施されている。２は土師器小型甕で、内外面ともにナデ調整が施されている。３～５は土師器甕である。内外面ともにナデ調整が施されている。**時期**：出土遺物や住居址の形態から古墳時代後期頃の所産と思われる。



第21図　10号住居址・カマド実測図



第22図　10号住居址出土遺物実測図

(11)　11号住居址

遺構（第23図）

検出位置：Nあ3、Nあ4、Nい2、Nう2、Nい3、Nい4、Nう3グリッド。**重複関係**：住居址中央付近を1号溝址に切られる。**平面形態**：1号溝址に切られているため詳細は不明であるが、概ね7.1m×4.1mの隅丸方形を呈するものと思われる。**主軸方位**はN-20°-Wを指す。**覆土**：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。**カマド**：検出されなかった。**床面の状況**：概ね平坦であった。地山を掘り込んで床面を形成していた。**ピット**：床面において、2基のピットが確認された。用途などは判然としない。**遺物出土状況**：住居址の覆土上・中・下層から偏りなく出土した。**柱穴**：今回の調査では柱穴は確認できなかった。

遺物（第24図、第1表）

24-1は須恵器坏蓋である。2は須恵器坏である。3は土師器坏で内面は黒色処理されている。

時期：出土遺物や住居址の形態から奈良時代後半～平安時代前半頃の所産と思われる。

(12)　12号住居址

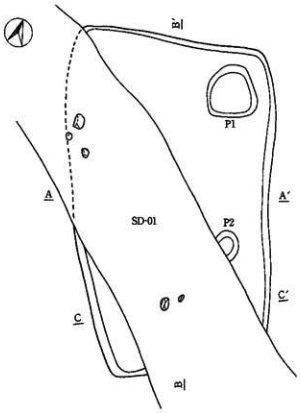
遺構（第25図）

検出位置：Nう3、Nえ3、Nえ4グリッド。**重複関係**：なし。**平面形態**：5.1m×3.6mの隅丸方形を呈する。**主軸方位**はN-11°-Eを指す。**覆土**：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。**カマド**：住居址の東側から検出された。住居廃絶時に解体されたものと思われ、カマド掘方周辺に石材が散乱した状態であった。**床面の状況**：概ね平坦であった。地山を掘り込んで床面を形成していた。**ピット**：床面において、3基のピットが確認された。用途などは判然としない。**遺物出土状況**：住居址の覆土上・中層からも少量は出土したが、ほとんどの遺物は下層からの出土であった。**柱穴**：今回の調査では柱穴は確認できなかった。

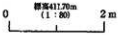
遺物（第26図、第1表）

26-1～3は須恵器坏である。4～9は土師器坏で、4の底部には回転糸切り痕を残す。5は高台付坏で内面に黒色処理が施されている。

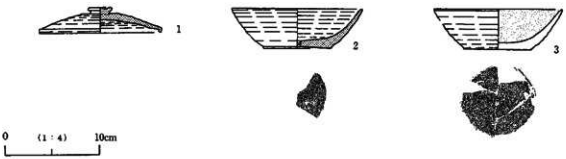
時期：出土遺物や住居址の形態から平安時代頃の所産と思われる。



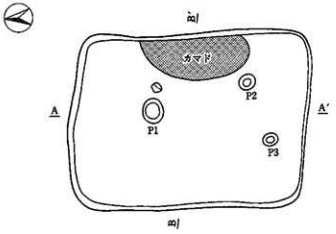
1．暗褐色土（10YR3/4）砂礫を多く含む。

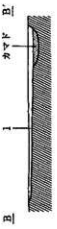


第23図　11号住居址実測図

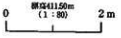


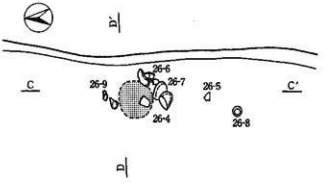
第24図　11号住居址出土遺物実測図

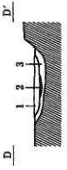


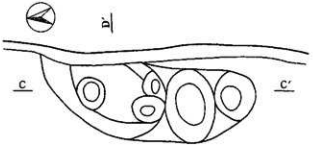


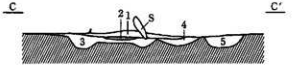
1．暗褐色土（10YR3/3）焼土粒・炭化粒を微量、砂礫を多く含む。
2．暗褐色土（10YR3/4）砂礫を含む。（P1）





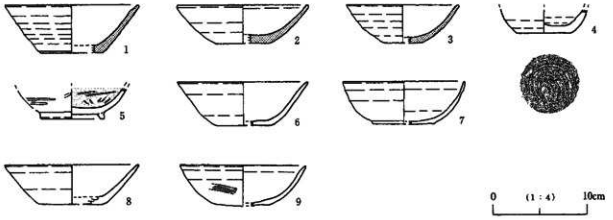




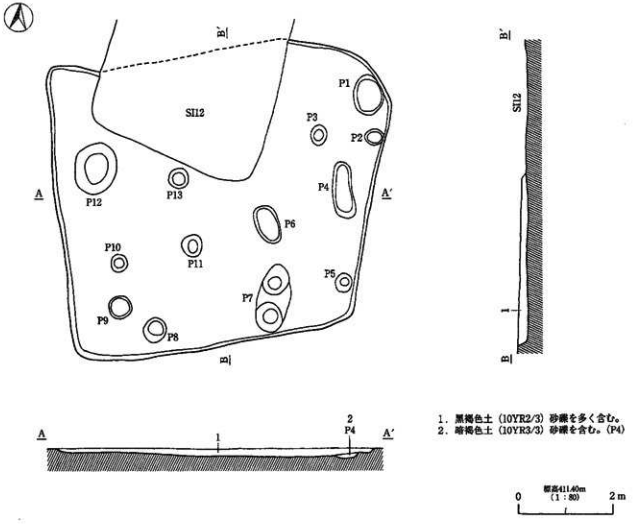


1．黒褐色土（10YR2/2）炭化物を少量含む。堆積層。
2．暗褐色土（10YR3/3）炭化物・焼土ブロックを多く含む。カマドの焼土層。
3．褐色土（10YR4/4）カマド掘り方埋土。
4．褐色土（10YR4/4）カマド掘り方埋土。
5．褐色土（10YR4/4）カマド掘り方埋土。

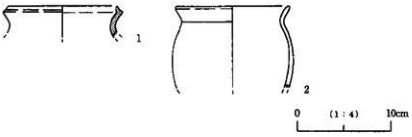
第25図　12号住居址・カマド実測図



第26図　12号住居址出土遺物実測図



第27図　13号住居址実測図



第28図　13号住居址出土遺物実測図

(13)　13号住居址

遺構（第27図）

検出位置：Nう3、Nう4、Nう5、Nえ3、Nえ4、Nえ5、Nお3、Nお4グリッド。**重複関係**：北側を12号住居址に切られている。**平面形態**：北側を12号住居址に切られて詳細は不明であるが、6.8m×6.0mの隅丸方形を呈する。**主軸方位**はN-7°-Wを指す。**覆土**：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。**カマド**：検出されなかった。**床面の状況**：概ね平坦であった。地山を掘り込んで床面を形成していた。**ピット**：床面において、14基のピットが確認された。用途などは判然としない。**遺物出土状況**：住居址の覆土上・中層からも少量は出土したが、ほとんどの遺物は下層からの出土であった。**柱穴**：今回の調査では柱穴は確認できなかった。

遺物（第28図、第1表）

28-1は須恵器甕である。2は土師器甕である。**時期**：出土遺物や住居址の形態から古代の所産と考えられるが詳細は不明である。

(14)　14号住居址

遺構（第29図）

検出位置：Nか4、Nか5、Nき4、Nき5グリッド。**重複関係**：南西側が調査区外未検出のため詳細は不明である。住居址中央北側を攪乱に切られている。**平面形態**：一部調査区外未検出のため詳細は不明であるが、概ね5.0m×4.2mの隅丸方形を呈するものと思われる。**主軸方位**はN-90°-Eを指す。**覆土**：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。**カマド**：住居址の東側から検出された。粘質土を用いたカマドで、北側のソデ部の残存状況は比較的良かったが、南側のソデ部は残存していなかった。**床面の状況**：概ね平坦であった。地山を掘り込んで床面を形成していた。**ピット**：確認されなかった。**遺物出土状況**：住居址の覆土下層から少量出土した。**柱穴**：今回の調査では柱穴は確認できなかった。

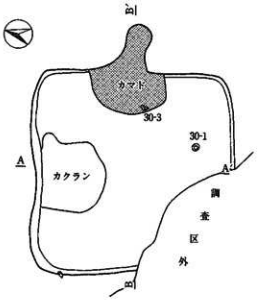
遺物（第30図、第1表）

30-1～3は須恵器坏で、底部には回転糸切り痕を残す。4は土師器甕である。**時期**：出土遺物や住居址の形態から奈良時代後半～平安時代初頭頃の所産と思われる。

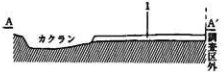
(15)　15号住居址

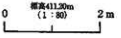
遺構（第31・32図）

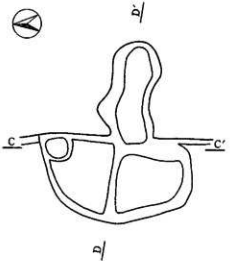
検出位置：Nく4、Nく5グリッド。**重複関係**：住居址のほとんどが調査区外未検出のため詳細は不明であ

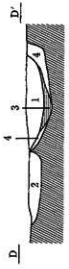


1．黒褐色土（10YR2/3）砂礫を多く含む。



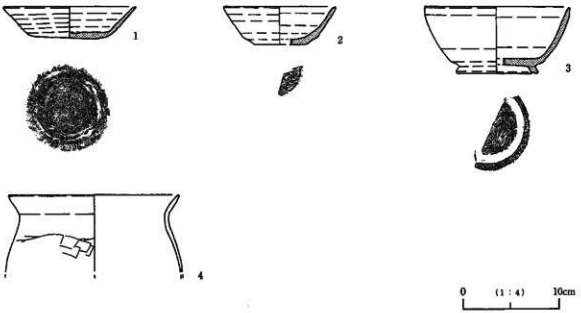




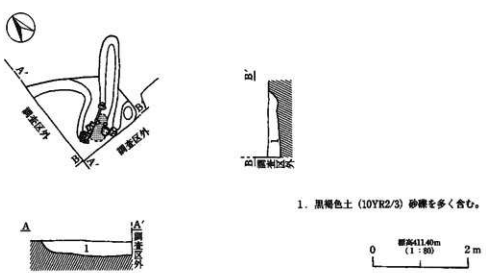


1．黒褐色土（10YR2/2）炭化物を少量含む。堆積層。
2．暗褐色土（10YR3/3）炭化粒・焼土粒を含む。堆積層。
3．暗褐色土（10YR3/3）炭化物・焼土ブロックを多く含む。カマドの焼土層。
4．褐色土（10YR4/4）カマド掘り方埋土。

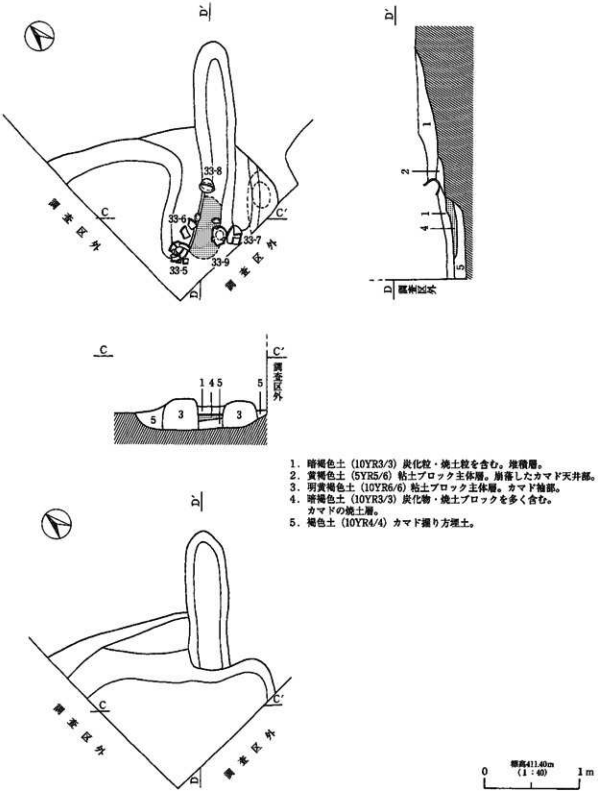
第29図　14号住居址・カマド実測図



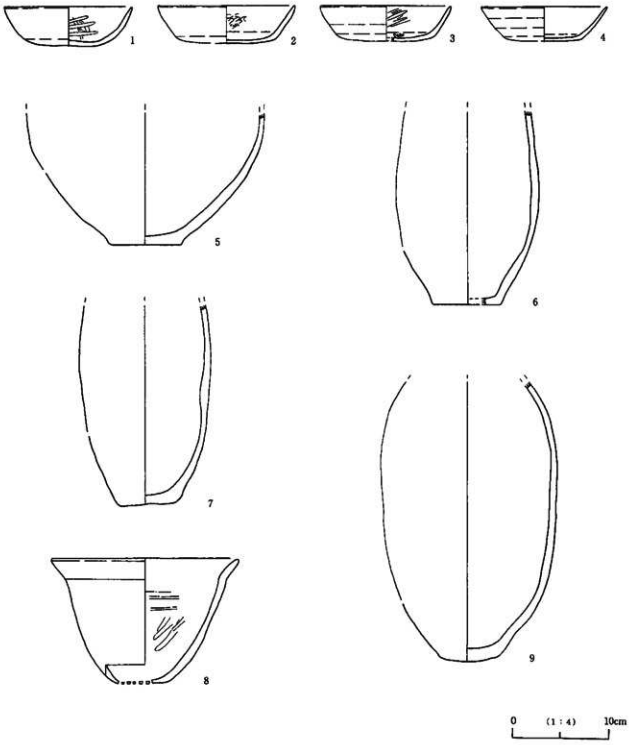
第30図　14号住居址出土遺物実測図



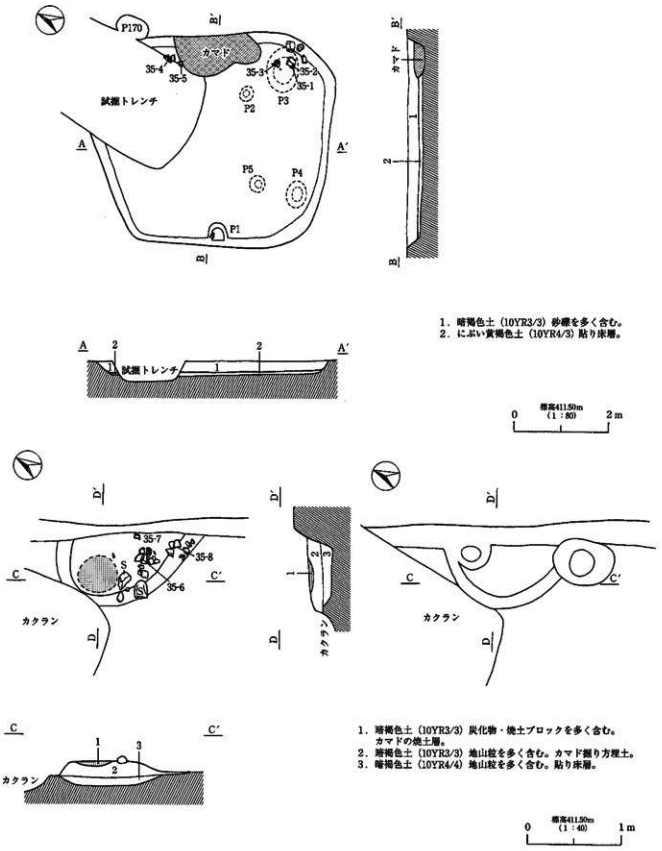
第31図　15号住居址実測図



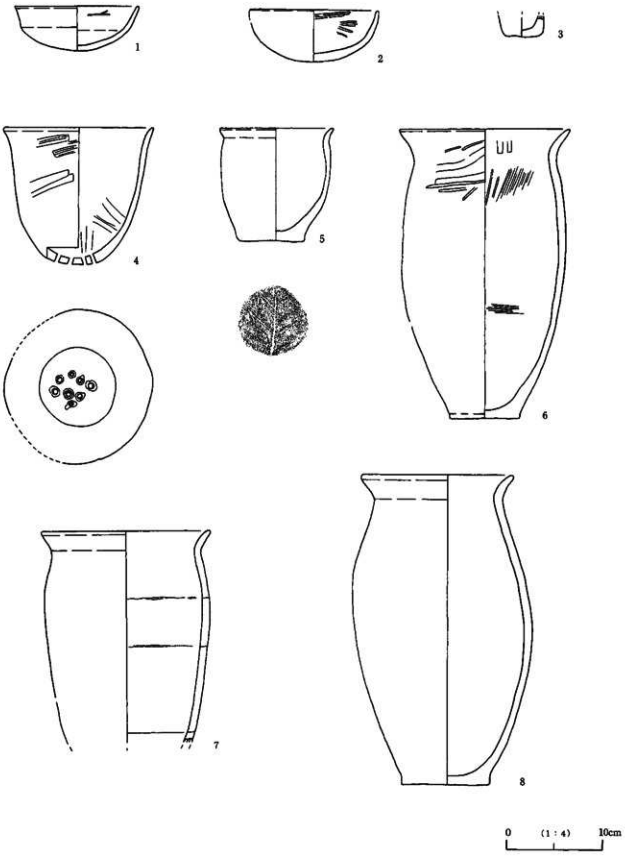
第32図　15号住居址カマド実測図



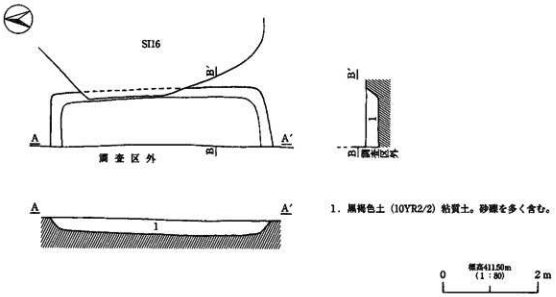
第33図　15号住居址出土遺物実測図



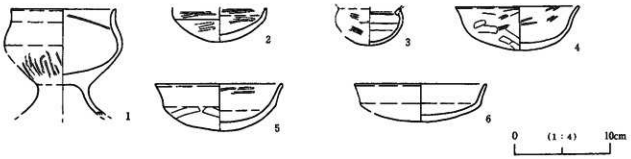
第34図　16号住居址・カマド実測図



第35図　16号住居址出土遺物実測図



第36図　17号住居址実測図

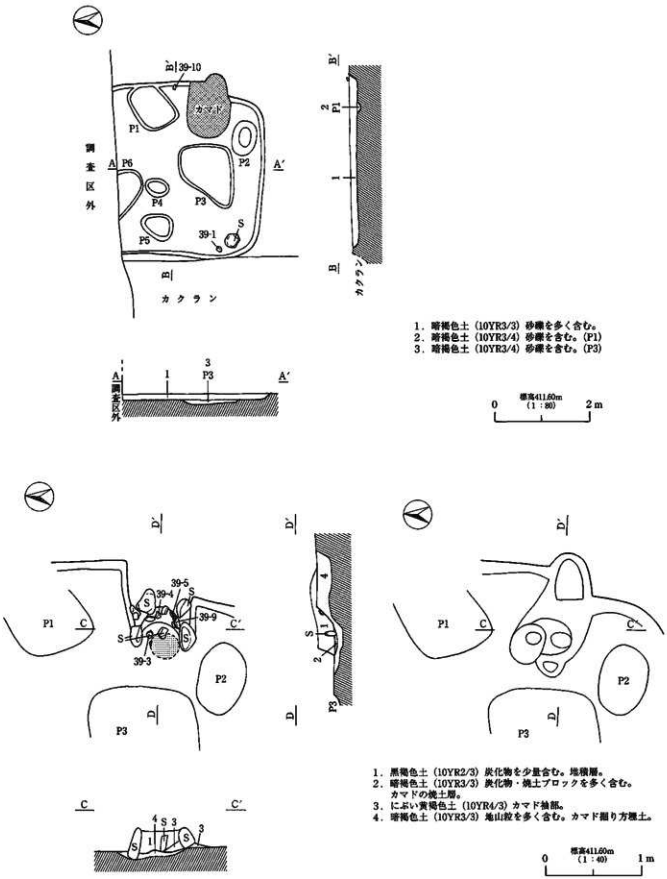


第37図　17号住居址出土遺物実測図

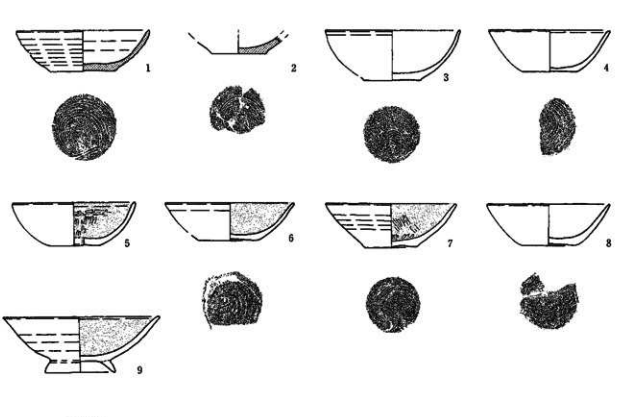
る。**平面形態**：調査区外未検出のため詳細は不明である。**覆土**：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。**カマド**：住居址の北東側から検出された。粘質土を用いたカマドで、ソデ部の残存状況は良好であった。**床面の状況**：概ね平坦であった。地山を掘り込んで床面を形成していた。**ピット**：確認できなかった。**遺物出土状況**：住居址の覆土上・中層からも少量は出土したが、ほとんどの遺物は下層からの出土で、カマドとその周辺に集中していた。**柱穴**：今回の調査では柱穴は確認できなかった。

遺物（第33図、第１・２表）

33-１～４は土師器坏である。内面はミガキが施されている。８は甑で、底部に複数の穿孔がある。５は土師器壺である。６・７・９は土師器甕で、焼損している。**時期**：出土遺物や住居址の形態から古墳時代後期頃の所産と思われる。



第38図　18号住居址・カマド実測図



第39図　18号住居址出土遺物実測図

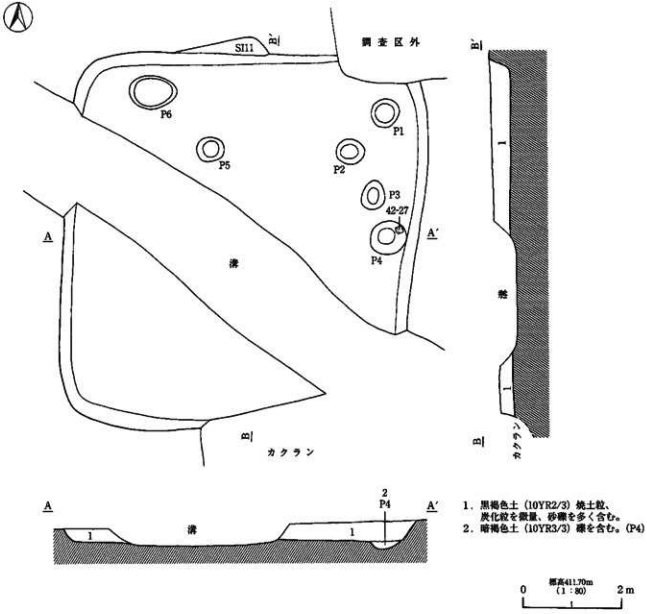
(16)　16号住居址

遺構（第34図）

検出位置：Nき2、Nき3、Nく2、Nく3グリッド。**重複関係**：北側を攪乱に切られている。**平面形態**：北側を攪乱に切られているため詳細は不明であるが、概ね4.9m×4.4mの隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位はN-68°-Eを指す。**覆土**：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。**カマド**：住居址の東側から検出された。住居廃絶時に解体されたものと思われ、カマド掘方周辺に石材が散乱した状態であった。**床面の状況**：概ね平坦であった。地山を掘り込んだ後に、厚さ数センチの床土を敷き込んでいた。**ピット**：床面において1基、床下において4基のピットが確認された。用途などは判然としない。**遺物出土状況**：住居址の覆土上・中層からも少量は出土したが、ほとんどの遺物は下層からの出土であった。**柱穴**：今回の調査では柱穴は確認できなかった。

遺物（第35図、第2表）

35-1・2は土師器坏でヘラミガキが施されている。3はミニチュア土器である。4は土師器甑で底部に複数の穿孔がある。5～8は土師器甕である。**時期**：出土遺物や住居址の形態から古墳時代後期頃の所産と思われる。



第40図　19号住居址実測図

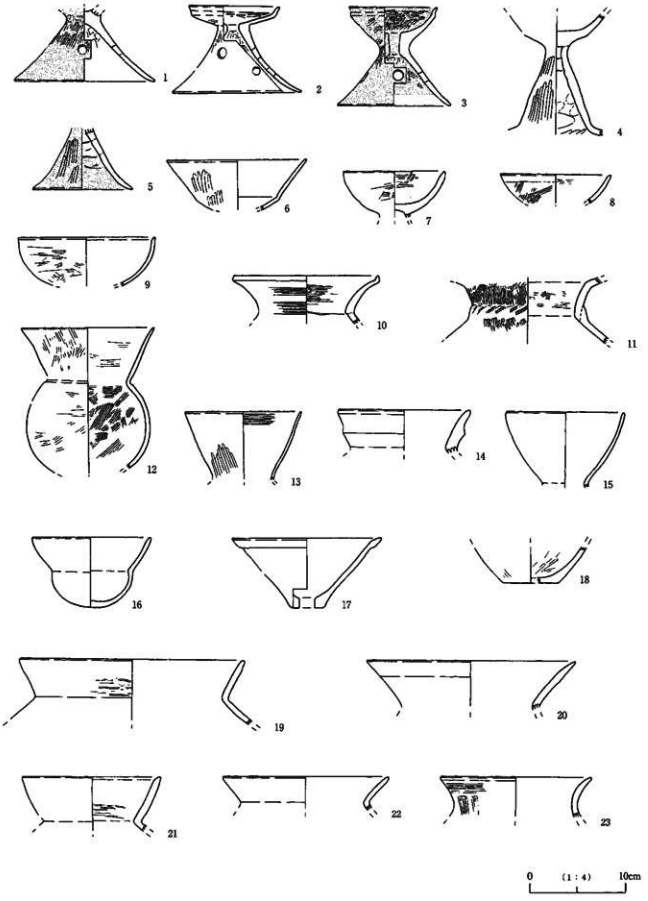
(17)　17号住居址

遺構（第36図）

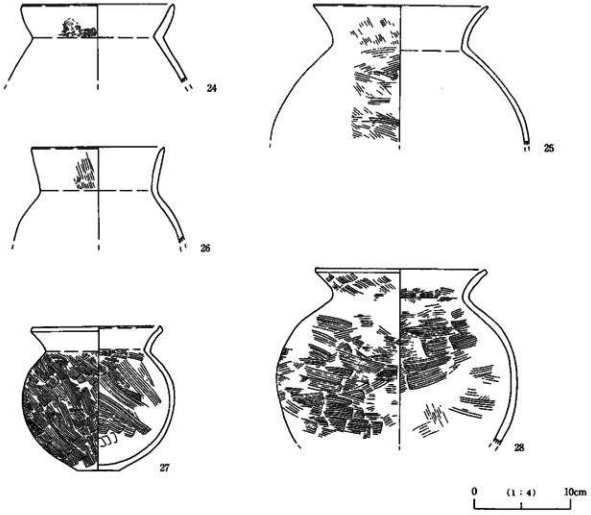
検出位置：Nく2、Nく3グリッド。**重複関係**：西側が調査区外未検出のため詳細は不明である。東側を攪乱に切られている。**平面形態**：住居址のほとんどが調査区外未検出のため詳細は不明である。**覆土**：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。**カマド**：検出されなかった。**床面の状況**：概ね平坦であった。地山を掘り込んで床面を形成していた。**ピット**：検出されなかった。**遺物出土状況**：住居址の覆土上・中層からも少量は出土したが、ほとんどの遺物は下層からの出土であった。**柱穴**：今回の調査では柱穴は確認できなかった。

遺物（第37図、第2表）

37-1は土師器高坏であるが須恵器高坏を模倣したものである。2～6は土師器の坏であるが、須恵器坏を模倣したものである。いずれも精緻な粘土を用いて作られている。**時期**：出土遺物や住居址の形態から古



第41図　19号住居址出土遺物実測図（1）



第42図　19号住居址出土遺物実測図（2）

墳時代後期頃の所産と思われる。

（18）　18号住居址

遺構（第38図）

検出位置：Nか1、Nき1グリッド。**重複関係**：北側が調査区外未検出のため詳細は不明である。西側の一部分を攪乱に切られている。**平面形態**：調査区外未検出のため詳細は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位はN-90°-Eを指す。**覆土**：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。**カマド**：住居址の東側から検出された。石材と粘質土を用いたカマドで、ソデ部の残存状況は比較的良かった。**床面の状況**：概ね平坦であった。地山を掘り込んで床面を形成していた。**ピット**：床面において、6基のピットが確認された。用途などは判然としない。**遺物出土状況**：住居址の覆土上・中層からも少量は出土したが、ほとんどの遺物は下層からの出土であった。**柱穴**：今回の調査では柱穴は確認できなかった。

遺物（第39図、第2表）

39-1・2は須恵器坏で底部に回転糸切痕を残す。3～9は土師器坏で、3・4・8以外は内面に黒色処

理が施されている。10は高坏の脚部であるが、カマドで支脚として使われていた。時期：出土遺物や住居址の形態から平安時代後半頃の所産と思われる。

(19) 19号住居址

遺構（第40図）

検出位置：Nあ2、Nあ3、Nあ4、Nい2、Nい3、Nい4、Nう2、Nう3、Nう4グリッド。重複関係：11号住居址を切っている。1号溝址に切られている。南側を攪乱に切られている。平面形態：南側を攪乱に切られているため詳細は不明であるが、概ね7.7m×7.3mの隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位はN-5°-Eを指す。覆土：黒褐色を基調とする土層が堆積していた。炉：検出されなかった。床面の状況：概ね平坦であった。地山を掘り込んで床面を形成していた。ピット：床面において、6基のピットが確認された。用途などは判然としない。遺物出土状況：住居址の覆土上・中層からも多く出土したが、ほとんどの遺物は下層からの出土であった。柱穴：今回の調査では柱穴は確認できなかった。

遺物（第41・42図、第2・3表）

41-1～3は土師器器台で、1は外面に3は内外面共に赤色塗彩されている。1・3は4方向に、2は6方向に円形の透孔が開けられている。4～9は高坏で、5は内外面共に赤色塗彩されている。5は脚部のみ、6～9は坏部のみが残存していた。10～16は土師器壺である。16は小型丸底壺である。17は甑である。底部に直径2cm程の孔が1つ開けられている。18～28は土師器甕である。27・28は布留甕の特徴をよく表している。時期：出土遺物や住居址の形態から古墳時代初頭頃の所産と思われる。

第２節　土坑址

(1)　１号土坑

遺構（第43図）

検出位置：Ｍく４グリッド。**重複関係**：調査区外未検出のため詳細は不明である。２号土坑を切っている。**平面形態**：調査区外未検出のため詳細は不明である。**断面形態**：浅い皿状を呈し、検出面からの深さは９cmである。**覆土**：暗褐色土（10YR３/３）の単層であった。**遺物出土状況**：下層より数点出土した。**時期**：帰属時期は不明である。

(2)　２号土坑

遺構（第43図）

検出位置：Ｍく４グリッド。**重複関係**：調査区外未検出のため詳細は不明である。１号土坑に切られている。**平面形態**：調査区外未検出のため詳細は不明である。**断面形態**：碗状を呈し、検出面からの深さは約25cmを測る。**覆土**：黒褐色土（10YR２/３）の単層であった。**遺物出土状況**：図示しえる遺物は出土しなかった。**時期**：帰属時期は不明である。

(3)　３号土坑

遺構（第43図）

検出位置：Ｍく４グリッド。**重複関係**：なし。**平面形態**：長軸約83cm、短軸約60cmの楕円形を呈し、主軸方位はＮ－３°－Ｅを指す。**断面形態**：逆台形状を呈し、検出面からの深さは40cmを測る。**覆土**：黒褐色粘質土（10YR３/２）の単層であった。**遺物出土状況**：覆土中より偏りなく数点出土した。

遺物（第45図、第３表）：45-１は土師器坏である。摩耗しており調整は不明である。**時期**：出土遺物から古墳時代後期頃の所産と考えられる。

(4)　４号土坑

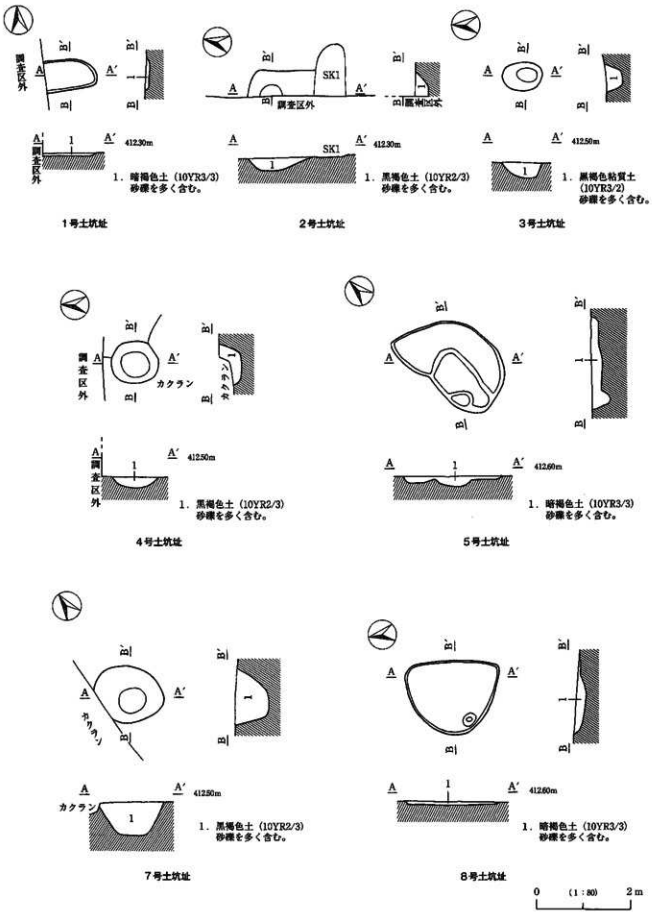
遺構（第43図）

検出位置：Ｍく３グリッド。**重複関係**：７号土坑に切られる。**平面形態**：長軸約1.0m、短軸約8.5mの楕円形を呈し、主軸方位はＮ－２°－Ｅを指す。**断面形態**：深い椀状を呈し、検出面からの深さは約45cmを測る。**覆土**：黒褐色土（10YR２/３）の単層であった。**遺物出土状況**：覆土中から陶器片が１点出土した。**時期**：帰属時期は中世以降であると考えられるが詳細は不明である。

(5)　５号土坑

遺構（第43図）

検出位置：Ｍか４グリッド。**重複関係**：２号住居址を切っている。**平面形態**：長軸約2.4m、短軸約1.4mの不正形な楕円形を呈し、主軸方位はＮ－１°－Ｅを指す。**断面形態**：皿状を呈し、検出面からの深さは38cmである。**覆土**：暗褐色土（10YR３/３）の単層であった。**遺物出土状況**：覆土中より偏りなく数点出土した。**時期**：帰属時期は不明である。



第43図　土坑址実測図（1）

(6) 7号土坑

遺構（第43図）

検出位置：Mく3、Mく4グリッド。重複関係：2号住居を切っている。平面形態：長軸約1.5m、短軸約1.2mの楕円形を呈し、主軸方位はN-54°-Wを指す。断面形態：やや深い椀状を呈し、検出面からの深さは72cmである。覆土：黒褐色土（10YR2/3）の単層であった。遺物出土状況：覆土中より偏りなく数点出土した。時期：帰属時期は不明である。

(7) 8号土坑

遺構（第43図）

検出位置：Mう4グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.9m、短軸約1.6mの半円形を呈し、主軸方位はN-12°-Eを指す。断面形態：皿状を呈し、検出面からの深さは20cmである。覆土：暗褐色土（10YR3/3）の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(8) 9号土坑

遺構（第44図）

検出位置：Hあ10、Iあ1、Hい10、Iい1グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約5.3m、短軸約0.8mの長楕円形を呈し、主軸方位はN-46°-Eを指す。断面形態：概ね皿状を呈しているが、4箇所の小ピット状のくぼみがある。覆土：暗褐色土（10YR3/3）の単層であった。遺物出土状況：覆土中より縄文土器片が1点出土した。時期：帰属時期は不明である。

(9) 10号土坑

遺構（第44図）

検出位置：Iう3グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.6m、短軸約1.0mの隅丸方形を呈し、主軸方位はN-0°-Eを指す。断面形態：浅い皿状を呈し、検出面からの深さは約7cmを測る。覆土：暗褐色土（10YR3/4）の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(10) 11号土坑

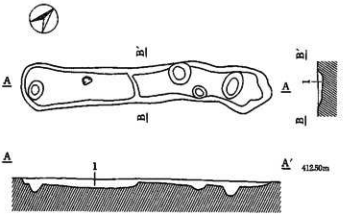
遺構（第44図）

検出位置：Iき2、Iき3グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.8m、短軸約1.0mの楕円形を呈し、主軸方位はN-16°-Eを指す。断面形態：2段に掘り込まれた逆台形を呈し、検出面からの深さは40cmである。覆土：暗褐色土（10YR3/3）の単層であった。遺物出土状況：図示しえる遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

(11) 12号土坑

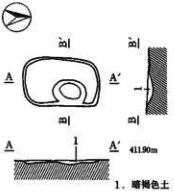
遺構（第44図）

検出位置：Iき5グリッド。重複関係：北側が調査区外未検出のため詳細は不明である。9号住居址を切っている。1号溝址に切られている。平面形態：南側が調査区外未検出のため詳細は不明であるが、概ね楕円形を呈し、主軸方位はN-65°-Eを指す。断面形態：椀状を呈し、検出面からの深さは46cmである。覆



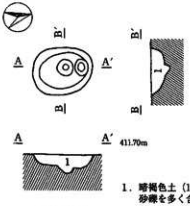
1．暗褐色土（10YR3/3）
砂礫を多く含む。

9号土坑址



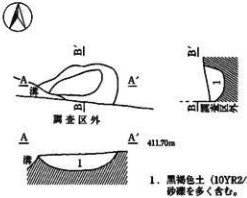
1．暗褐色土（10YR3/4）
砂礫を多く含む。

10号土坑址



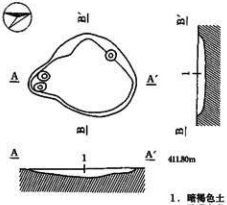
1．暗褐色土（10YR3/3）
砂礫を多く含む。

11号土坑址



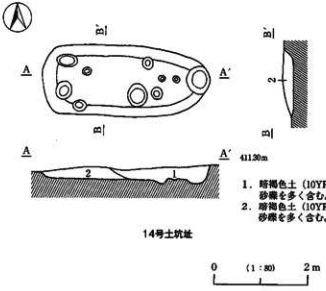
1．黒褐色土（10YR2/3）
砂礫を多く含む。

12号土坑址



1．暗褐色土（10YR3/4）
砂礫を多く含む。

13号土坑址



1．暗褐色土（10YR3/3）
砂礫を多く含む。
2．暗褐色土（10YR2/3）
砂礫を多く含む。

14号土坑址

第44図　土坑址実測図（2）

第45図　土抗址出土遺物実測図

土：黒褐色土（10YR２/３）の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

（12）　13号土坑

遺構（第44図）

検出位置：Ｉけ４、Ｉこ４グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約2.25m、短軸約1.7mの不正形な楕円形を呈し、主軸方位はN-19°-Eを指す。断面形態：皿状を呈し、検出面約らの深さは約18cmである。覆土：暗褐色土（10YR３/４）の単層であった。遺物出土状況：図示しえる遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

（13）　14号土坑

遺構（第44図）

検出位置：Ｎか３、Ｎか４、Ｎき３、Ｎき４グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約3.6m、短軸約1.5mの楕円形を呈し、主軸方位はN-90°-Eを指す。断面形態：緩やかな逆台形を呈し、検出面からの深さは約40cmである。覆土：暗褐色を基調とする土層であった。遺物出土状況：図示しえる遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

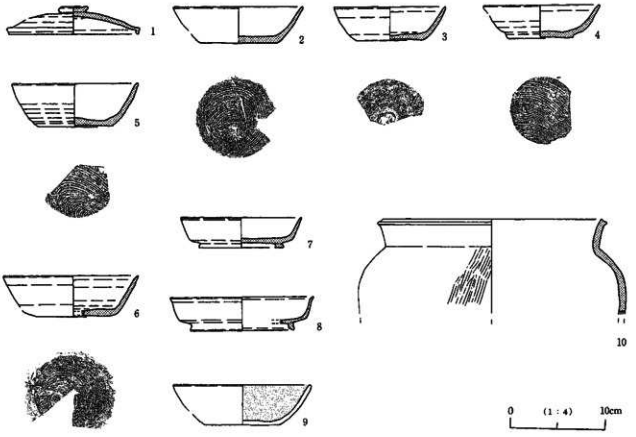
第３節　溝址

(1)　１号溝址

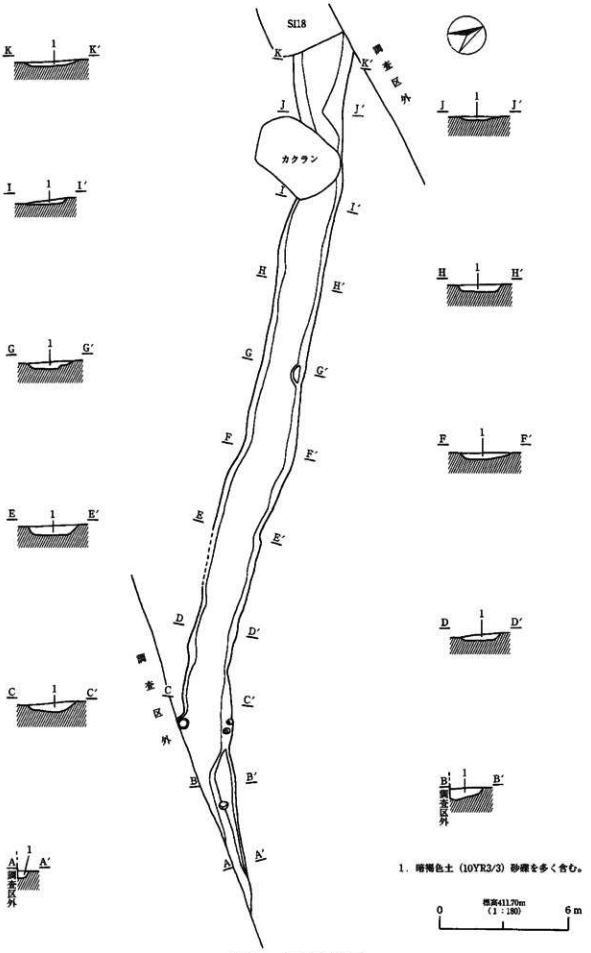
遺構（第47図）

検出位置：Ｉき５、Ｉく５、Ｉけ５、Ｉこ４、Ｉこ５、Ｎあ３、Ｎあ４、Ｎあ５、Ｎい３、Ｎい４、Ｎう２、Ｎう３、Ｎえ１、Ｎえ２、Ｎえ３、Ｎお１、Ｎお２、Ｎか１グリッド。**重複関係**：調査区外未検出のため詳細は不明である。９・11・19号住居址、12号土坑を切っている。**平面形態**：調査区外未検出のため詳細は不明であるが、南東～北西方向にのびている。**断面形態**：概ね逆台形を呈しており、検出面からの深さは８～24cm である。**覆土**：暗褐色土（10YR３/４）の単層であった。**遺物出土状況**：覆土中層から比較的多くの遺物が出土した。

遺物（第46図、第３表）：46-１須恵器坏蓋である。２～６は須恵器坏である。底部に回転糸切痕を残す。７・８は高台付坏である。底は平らでやや浅い。10は須恵器甕である。**時期**：出土遺物から平安時代前半頃の所産と考えられる。



第46図　１号溝址出土遺物実測図

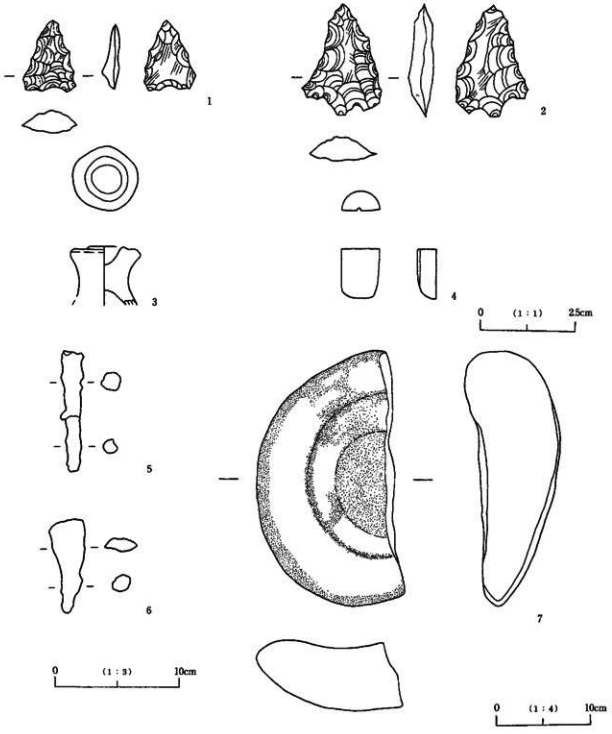


第47図　1号溝址実測図

第4節　その他の遺構・遺物

(1)　遺構外出土遺物（第48図、第4・5表）

48-1は頁岩製の石鏃で、やや摩耗している。2は黒曜石製の石鏃である。3は土製品で縄文時代の耳飾りと思われる。4は碧玉製の管玉で、欠損している。5・6は鉄鏃であると思われるが、錆が厚く判然としない。7は石皿である。



第48図　遺構外出土遺物実測図

第1表　掲載土器観察表

〈　〉復元値　（　）残存値を示す。

掲載No.	遺構名	現場No.	整理No.	種別	器種分類	残存度	法量(cm) 口径	器高	底径	調整・文様 外面	内面	色調	備考
7-1	SI-01	1	1	土師器	壺	口～底部 5/6	13.5	14.2	7.0	ヘラナデ	口縁部ヘラナデ 底部ユビナデ	内外新5YR4/6赤褐色	
9-1	SI-02	—	1	土師器	甕	口～底部 1/3	(11.4	(10.4)	(6.0)	ヘラナデ	ヘラナデ	内新10YR2/1黒褐色 外5YR4/3にぶい黄褐色	
11-1	SI-03	—	1	弥生	壺	底部僅残	—	(5.7)	8.3	ナデ	ナデ	内新7.5YR6/3にぶい褐色 外5YR4/6赤褐色	低かに赤色塗彩の痕跡が残る
13-1	SI-04	—	2	弥生	高坏	脚部3/4	—	(6.0)	(16.0)	ヘラミガキ 赤色塗彩	ヘラミガキ	内7.5YR6/4にぶい橙色 外5.25YR4/6赤褐色 脚部5Y4/1灰色	四方向透かしあり
13-2	SI-04	4	1	弥生	壺	底部完存	—	(3.3)	11.0	ヘラミガキ	ヘラナデ	内外新7.5YR5/6明褐色	
13-3	SI-04	5	4	弥生	甕	口～底部 1/3	16.0	(15.0)	—	口～胴部櫛描波状紋 頸部)櫛描集状紋	ハケナデ	内外新10YR7/4にぶい黄橙色	
13-4	SI-04	—	3	弥生	甕	口縁部 1/2	(20.0)	(7.5)	—	5本1組の櫛描簾状紋	ヘラナデ	内外新7.5YR5/4	
16-1	SI-06		2	弥生	高坏	脚部～基部僅残	—	(3.0)	—	ヘラミガキ　指ナデ	ヘラミガキ　指ナデ	内外)10YR4/2灰黄褐色 外)10YR5/4にぶい褐色	
16-2	SI-06	1	1	弥生	高坏	脚部完存	—	(4.5)	10.2	ナデ	指ナデ　ヘラミガキ	内外新7.5YR6/4にぶい橙色	
16-3	SI-06		3	弥生	壺	底部～胴部僅残	—	(4.0)	6.8	ナデ	ナデ	内)7.5YR5/3にぶい黄褐色 外新)7.5YR4/3褐色	
18-1	SI-07		2	土師器	甕	口縁部 1/4	(15.6)	(5.0)	—	ハケナデ	ヘラミガキ	内)10YR1/5褐色 外新)10YR6/3	
18-2	SI-07	1	1	土師器	小型甕	完形	8.0	7.0	3.0	ナデ	ナデ	内外新7.5YR6/4にぶい橙色	
18-3	SI-07		3	土師器	甕	口～底部 1/2	(9.0)	9.0	3.5	ナデ	ナデ	内外新7.5YR6/6橙色	外面に煤付着
22-1	SI-10		3	土師器	坏	口～底部 1/2	(12.8)	4.2	8.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	外内新10YR7/3にぶい黄橙色	底部ヘラケズリ
22-2	SI-10		4	土師器	小型甕	口～底部 1/3	(9.6)	6.2	(6.0)	ナデ	ナデ	内外新7.5YR6/4にぶい橙色	
22-3	SI-10		1	土師器	甕	底部～胴部僅残	—	(4.5)	6.0	ナデ	ヘラナデ	内)10YR6/3にぶい黄橙色 外新)2.5YR4/4赤褐色	
22-4	SI-10		2	土師器	甕	底～胴部 2/3	—	(5.2)	(6.0)	ヘラナデ	ヘラナデ	内新)7.5YR4/4褐色 外)7.5YR2/3	
22-5	SI-10	2	5	土師器	甕	底～胴部 2/4	—	(6.5)	7.0	ハケナデ	ヘラナデ	内外)10YR3/3暗褐色 新7.5YR4/3	底部ヘラケズリ
24-1	SI-11		14	須恵器	坏蓋	1/2	(12.8)	27	—	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	内外新N0/4灰色	ツマミ径25cm
24-2	SI-11		2	須恵器	坏	口～底部 1/4	(14.0)	4.2	(7.2)	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	内外新5YR6/1灰色	底部回転糸切り
24-3	SI-11		15	土師器	坏	口～底部 3/4	(13.4)	4.2	7.0	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ 黒色処理	内)10YR2/1 外新)にぶい橙色	底部回転糸切り
26-1	SI-12	3	8	須恵器	坏	2/4	(14.0)	5.0	(6.5)	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	外内新)10YR6/2灰黄褐色	焼成不良
26-2	SI-12		9	須恵器	坏	1/4	(14.0)	4.0	(5.5)	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	内外新)2.5Y5/1黄灰色	焼成不良
26-3	SI-12		10	須恵器	坏	1/4	(12.0)	4.0	(4.5)	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	内外新)2.5Y5/1黄灰色	焼成不良
26-4	SI-12	6	1	土師器	坏	1/4	—	(2.5)	6.0	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	外内新)10YR6/4にぶい橙色	底部回転糸切り
26-5	SI-12		2	土師器	高台付坏	1/3	—	(3.2)	6.7	ヘラミガキ 黒色処理	ヨコナデ 黒色処理	内外新)2.5GY2/1黒色	
26-6	SI-12		4	土師器	坏	口～底部 1/4	(14.0)	4.5	(5.5)	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	内新)10YR6/4にぶい黄橙色 外)5YR6/4にぶい橙色	
26-7	SI-12		5	土師器	坏	口～底部 1/3	(13.0)	4.5	(6.5)	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	外内新)5YR6/6橙色	
26-8	SI-12		6	土師器	坏	口～底部 1/4	(14.0)	4.2	(7.0)	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	内外新)7.5Y4/1灰色	
26-9	SI-12	4	3	土師器	坏	1/3	13.4	4.2	(5.4)	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	内外新)10YR6/4にぶい黄橙色	底部ヘラ切り
28-1	SI-13		2	須恵器	甕	口縁部 1/4	(11.5)	(3.3)	—	ヨコナデ	ヨコナデ	内外新)2.5Y5/2暗灰黄色	自然釉
28-2	SI-13		1	土師器	甕	口～胴部 1/4	(12.0)	(8.5)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	内)10YR5/3黄褐色 外新)7.5YR4/6褐色	
30-1	SI-14	1	1	須恵器	坏	口は完形	14.0	34	6.8	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	内外新)2.5Y6/1黄灰色	底部回転ヘラ切り
30-2	SI-14		4	須恵器	坏	口～底部 1/6	(12.0)	3.9	(5.7)	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	内外新5Y6/1灰色	底部回転ヘラ切り
30-3	SI-14	2	2	須恵器	高台付坏	口～底部 1/4	(15.3)	6.9	(8.6)	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	内新)7.5Y5/1灰色 外)5YR5/3にぶい赤褐色	底部回転糸切り
30-4	SI-14		5	土師器	甕	口～胴部 1/5	(18.2)	(8.0)	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	内外新)7.5YR3/3暗褐色	
33-1	SI-15		8	土師器	坏	口～底部 3/4	13.4	4.4	6.2	ヘラナデ	ヘラミガキ	内)10YR5/3にぶい黄褐色 外新)2.5Y7/4浅黄色	
33-2	SI-15		9	土師器	坏	口～底部 1/4	(14.3)	(3.9)	(6.0)	ナデ	ヘラミガキ	内外新)10YR5/3にぶい黄褐色	
33-3	SI-15		10	土師器	坏	口～底部 1/4	(13.7)	(3.7)	(10.0)	ナデ	ヘラミガキ	内)7.5YR5/2灰褐色 外新)10YR6/4にぶい黄橙色	
33-4	SI-15		11	土師器	坏	口～底部 1/4	(13.2)	(3.6)	(8.5)	ナデ	ヘラミガキ	内外新)10YR7/3にぶい黄橙色	
33-5	SI-15	3	3	土師器	壺	胴～底部 1/3	—	(14.7)	7.0	ヘラケズリ	ヘラナデ	内外新)7.5YR7/6橙色	
33-6	SI-15	4	4	土師器	甕	胴～底部 1/2	—	(20.0)	7.0			内外新)10YR4/3にぶい黄褐色	
33-7	SI-15	6	6	土師器	甕	胴～底部 1/2	—	(21.0)	6.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	内外新)7.5YR5/3にぶい褐色	

第2表　掲載土器観察表

（ ）推定値　（ ）残存値を示す。

掲載No.	遺構名	現場No.	整理No.	種別	器種分類	残存度	法量(cm) 口径	器高	底径	調整・文様 外面	内面	色調		備考
33-8	SI-15	7	7	土師器	甕	ほぼ完形	19.5	13.0	6.0	ヨコナデ	ハケナデ・ヘラミガキ	内外新)10YR6/3にぶい黄橙色		
33-9	SI-15	5	5	土師器	甕	脚～底部1/2	—	(29.0)	5.6	ヘラナデ	ハケナデ	内新)7.5YR5/4にぶい褐色 外)2.5YR4/4		
35-1	SI-16		6	土師器	坏	口～底部1/2	(13.0)	4.8	—	ヨコナデ	ヘラミガキ	外内新)5YR6/8橙色		
35-2	SI-16		6	土師器	坏	口～底部3/4	(14.0)	5.5	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	内外新)7.5YR6/4にぶい橙色		
35-3	SI-16		7	土師器	手捏ね要	脚～底部	—	(2.0)	4.0	ユビナデ	ユビナデ	内外)10YR5/4にぶい黄褐色		
35-4	SI-16	10	9	土師器	甕	口～底部3/4	(18.08)	14.3	8.0	ナデ	ナデ	内外新)5YR6/6橙色		
35-5	SI-16		8	土師器	甕	口～底部3/4	(12.0)	12.0	7.0	ナデ	ナデ	内外新)5YR5/4にぶい褐色		
35-6	SI-16	1	10	土師器	甕	口～底部3/4	(18.0)	30.2	(7.0)	ナデ	ナデ	内外新)5YR6/6橙色		
35-7	SI-16	4	12	土師器	甕	口～底部2/3	(18.0)	22.0	—	ナデ	ナデ	内外新)7.5YR6/4にぶい橙色		
35-8	SI-16	11	11	土師器	甕	口～底部4/5	16.0	32.5	9.4	ナデ	ナデ	内外新)7.5Y6/1にぶい橙色		
37-1	SI-17		7	土師器	高坏	2/3	11.0	(11.0)	—	ミガキ	ミガキ	内)10YR4/1褐灰色 外新)10YR6/2にぶい黄橙色	須恵器模倣品	
37-2	SI-17		3	土師器	坏	口～底部9/10	(10.0)	3.6	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	内外新)5YR6/6橙色	須恵器模倣品	
37-3	SI-17		2	土師器	壺	脚～底部1/2	(6.5)	(4.0)	—	ミガキ	ナデ	内外新)7.5YR5/4にぶい橙色	須恵器模倣品	
37-4	SI-17		9	土師器	坏	口～底部3/4	(13.0)	4.5	—	ナデ	ミガキ	内)7.5Y2/1黒色 外新)10YR6/2灰黄褐色	須恵器模倣品	
37-5	SI-17		10	土師器	坏	口～底部3/4	(13.5)	4.8	—	ヘラケズリ	ミガキ	内外)10YR7/2 新)10Y2/1黒色	須恵器模倣品	
37-6	SI-17		11	土師器	坏	口～底部1/2	(14.0)	4.0	—	ナデ	ナデ	内外)10YR7/3 新)7.5Y5/1灰色	須恵器模倣品	
39-1	SI-18	10	10	須恵器	坏	口～底部1/2	(14.0)	4.3	6.8	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	内外新)5Y7/1灰白色	底部回転糸切り	
39-2	SI-18		10	須恵器	坏	底部3/4	—	(2.7)	5.8	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	内外新)2.5Y7/1灰白色	底部回転糸切り	
39-3	SI-18	1	1	土師器	坏	口～底部1/2	(14.2)	5.3	6.0	ヨコナデ	ナデ	内外新)7.5YR4/6褐色	底部回転糸切り	
39-4	SI-18	3	3	土師器	坏	口～底部1/2	(13.0)	4.4	(5.8)	ナデ	ナデ	内外新)7.5YR4/6褐色	底部回転糸切り	
39-5	SI-18	5	5	土師器	坏	口～底部1/2	(13.0)	4.5	(5.5)	ヨコナデ	ミガキ・黒色処理	内)10YR2/1黒色 外新)7.5YR4/6褐色	底部回転糸切り	
39-6	SI-18	7	7	土師器	坏	口～底部1/2	(13.8)	3.9	6.3	ロクロヨコナデ	ミガキ・黒色処理	内)5Y2/1黒色 外新)7.5YR4/6褐色	底部回転糸切り	
39-7	SI-18	8	8	土師器	坏	口～底部5/6	14.0	4.7	5.6	ロクロヨコナデ	ミガキ・黒色処理	内)5Y2/1黒色 外新)5YR4/6赤褐色	底部回転糸切り	
39-8	SI-18		12	土師器	坏	底部1/4	(13.0)	4.3	5.5	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	内外新)2.5YR5/6赤褐色	底部回転糸切り	
39-9	SI-18	6	6	土師器	高台付坏	口～底部4/5	16.4	5.8	7.4	ロクロヨコナデ	ミガキ・黒色処理	内)10R2/1赤黒色 外新)10R84/8赤色		
39-10	SI-18	9	9	土師器	高坏	脚部	—	(9.8)	—	ナデ		内外新)5YR4/6赤褐色	転用品	
41-1	SI-19		22	土師器	器台	脚部1/4	—	(8.0)	(16.0)	ヘラミガキ・赤色塗彩	ナデ	内外新)7.5YR6/6橙色		
41-2	SI-19		5	土師器	器台	口～脚部3/4	9.6	9.2	(13.8)	ヘラミガキ	ナデ	内外新)5YR7/4にぶい橙色		
41-3	SI-19		6	土師器	器台	ほぼ完形	9.4	10.4	12.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	内外)10R4/8赤色 新)5YR6/6橙色		
41-4	SI-19		16	土師器	高坏	脚部	—	(12.5)	—	ヘラミガキ	ヨコナデ	内外新)5YR6/6橙色		
41-5	SI-19		17	土師器	高坏	脚部1/4	—	(6.5)	(10.0)	ヘラミガキ・赤色塗彩	ナデ・赤色塗彩	内外新)7.5YR6/4にぶい橙色		
41-6	SI-19		20	土師器	高坏	口～底部1/2	(15.5)	5.2	9.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	内外新)7.5YR6/4にぶい橙色		
41-7	SI-19		20	土師器	高坏	坏部1/2	(10.8)	(4.8)	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	内外新)7.5YR5/4にぶい褐色		
41-8	SI-19		3	土師器	高坏	口縁部1/4	(11.6)	(3.0)	—	ナデ	ナデ	内外新)7.5YR6/4にぶい橙色		
41-9	SI-19		2	土師器	高坏	口～底部1/4	(14.4)	(5.1)	—	ナデ	ナデ	内外新)5YR6/6橙色		
41-10	SI-19		18	土師器	壺	口縁～頸部僅残	15.5	(5.0)	—	ヨコナデ	ヨコナデ	内外新)7.5YR6/4にぶい橙色		
41-11	SI-19		18	土師器	壺	頸部2/3	—	6.8	—	ナデ	ナデ	内)10YR5/4にぶい黄褐色 外新)5YR5/8明赤褐色		
41-12	SI-19		21	土師器	壺	口縁完存	12.4	(7.2)	—	ヘラミガキ	ヨコナデ	内外新)7.5YR7/4にぶい橙色		
41-13	SI-19		21	土師器	壺	口～頸部3/4	14.0	(15.2)	—	ナデ	ナデ	内外新)7.5YR6/4にぶい橙色		
41-14	SI-19		19	土師器	壺	口縁部3/4	(14.0)	(4.3)	—	ナデ	ナデ	内外)7.5YR6/6橙色 新)7.5YR5/1褐灰色		
41-15	SI-19		14	土師器	壺	口縁部1/5	(12.5)	(7.8)	—	ハケナデ	ナデ	内外新)10YR5/4にぶい黄褐色		
41-16	SI-19		4	土師器	壺	ほぼ完形	12.5	7.4	—	ナデ	ナデ	内外)5YR6/8橙色 新)7.5YR6/6橙色		
41-17	SI-19		23	土師器	甕	口～底部1/3	(18.0)	7.3	3.5	ナデ	ナデ	内外新)7.5YR6/6橙色		

第3表　掲載土器観察表

（ ）推定値　（ ）残存値を示す。

掲載No.	遺構名	現場No.	整理No.	種別	器種分類	残存度	法量(cm) 口径	法量(cm) 器高	法量(cm) 底径	調整・文様 外面	調整・文様 内面	色調	備考
41-18	SI-19		7	土師器	甕	底部1/3	—	(3.7)	(6.0)	ハケナデ	ナデ		
41-19	SI-19		10	土師器	甕	□縁部1/3	(23.7)	(6.3)	—	ハケナデ	ハケナデ	内)5YR5/2灰黄褐色 外部)10YR5/4にぶい黄褐色	
41-20	SI-19		15	土師器	甕	□縁部1/4	(21.9)	(4.8)	—	ハケナデ	ナデ	内)10YR5/4にぶい黄褐色 外部)5YR4/3にぶい赤褐色	
41-21	SI-19		13	土師器	甕	□縁部4/5	(14.5)	(5.8)	—	ハケナデ	ハケナデ	内外部)7.5YR6/4にぶい橙色	
41-22	SI-19		12	土師器	甕	□縁部1/4	(17.5)	(3.3)	—	ナデ	ナデ	内)10YR4/1褐灰色 外部)10YR6/4にぶい黄橙色	
41-23	SI-19		9	土師器	甕	□縁部1/4	(16.0)	(4.2)	—	ヨコナデ	ヨコナデ	内外部)10YR6/4にぶい黄橙色	
42-24	SI-19		11	土師器	甕	□縁部1/3	(16.2)	(8.0)	—	ハケナデ	ハケナデ	内外部)7.5YR6/4にぶい橙色	
42-25	SI-19		17	土師器	甕	□～胴部1/2	(18.4)	(14.3)	—	ハケナデ	ナデ	内部)7.5YR5/3にぶい黄褐色 外)10YR5/3にぶい黄褐色	
42-26	SI-19		16	土師器	甕	□縁部1/2	(14.0)	(9.7)	—	ハケナデ	ナデ	内部)7.5YR5/6明褐色 外)7.5YR4/3褐色	
42-27	SI-19	1	1	土師器	甕	完形	13.8	15.2	4.3	ナデ	ナデ	内)5YR4/6赤褐色 外部)5YR4/4にぶい赤褐色	
42-28	SI-19		8	土師器	甕	□～胴部2/3	(17.8)	(19.8)	—	ハケナデ	ハケナデ	内外部)2.5YR6/8橙色	
45-1	SK-01		1	土師器	坏	□～底部1/4	(13.6)	(4.2)	(7.0)	ヘラミガキ	ヘラミガキ・黒色処理	内外部)7.5Y2/1黒色	
46-1	SD-01		15	須恵器	坏蓋	□～天井1/2	(13.6)	2.9	—	ヨコナデ	ヨコナデ	内外部)7.5YR5/3黒色	
46-2	SD-01		4	須恵器	坏	□～底部1/2	(13.8)	(3.8)	8.2	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	内外部)7.5Y5/1灰色	底部回転糸切り 内外面に火襷
46-3	SD-01		6	須恵器	坏	□～底部1/4	(11.8)	(3.8)	(7.0)	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	内外部)7.5Y5/1灰色	底部ヘラ切 内外面に火襷
46-4	SD-01		11	須恵器	坏	□～底部1/2	(12.3)	3.5	7.0	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	内外部)7.5Y5/1灰色	底部静止糸切り
46-5	SD-01		12	須恵器	坏	□～底部1/4	(13.3)	4.5	(7.7)	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	内外部)7.5YR/1灰白色	底部静止糸切り
46-6	SD-01		13	須恵器	坏	□～底部1/2	(14.2)	4.3	8.0	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	内外部)7.5Y6/1灰色	底部回転糸切り 内外面に火襷
46-7	SD-01		14	須恵器	高台付坏	□～底部1/5	(12.8)	3.2	(9.0)	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	内外)2.5YR4/1赤灰色 胴)2.5YR4/3にぶい赤褐色	底部回転糸切り 貼り付け高台
46-8	SD-01		16	須恵器	高台付坏	□～底部1/6	(15.2)	3.5	(11.0)	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	内外部)7.5Y5/1灰色	内外面に火襷 貼り付け高台
46-9	SD-01		3	土師器	坏	□～底部1/2	(14.6)	(4.3)	(8.0)	ナデ	ヘラミガキ・黒色処理	内)2.5GY2/1黒色 外部)10YR7/4にぶい黄橙色	
46-10	SD-01		17	須恵器	甕	□～胴部1/4	(23.0)	(10.0)	—	ナデ・タタキメ	ナデ	内外部)7.5YR5/3にぶい褐色	

第4表　掲載石器観察表

（ ）推定値　（ ）残存値を示す。

掲載No.	遺構名	整理No.	種別	石質	残存度	法量(cm) 長さ	法量(cm) 幅	法量(cm) 厚さ	質量(g)	注記	備考
48-1	SI-11	1	石鏃	頁岩	一部欠損	1.8	1.3	0.6	1.1	MKOⅡ　SI11	
48-2	SI-11	2	石鏃	黒曜石	一部欠損	2.9	2.1	0.6	3.4	MKOⅡ　SI11	
48-4	SD-01	1	管玉	碧玉	欠損	—	—	—	0.9	MKOⅡ　SD01	
48-7	SI-10		石皿	安山岩	欠損	—	—	7.2	480	MKOⅡ　SI10　No.7	

第5表　掲載鉄器観察表

（ ）推定値　（ ）残存値を示す。

掲載No.	遺構名	整理No.	種別	器種・分類	残存度	法量(cm) 長さ	法量(cm) 幅	法量(cm) 厚さ	質量(g)	注記	備考
48-5	SD-01	1	鉄器	鉄鏃	—	(9.4)	(1.5)	(1.3)	23.5	MKOⅡ　SD01	
48-6	SD-01	2	鉄器	鉄鏃	完存	(7.2)	(2.8)	(1.0)	20.1	MKOⅡ　SD01	

第Ⅴ章　総括

本遺跡の発掘調査によって検出された遺構は、弥生時代から平安時代にいたる住居址19棟、土坑址13基、溝址１条などであった。限られた調査区でありながらかくも多くの遺構が検出されたことから、周辺は密度の濃い遺構分布を示すものと思われる。

大木久保遺跡はこれまでの分布調査や採集された遺物等によって縄文時代から平安時代にかけての集落遺跡と考えられていた。これまでに発掘調査が行われたことはなかったが、今回の調査で金井地区の原始・古代の状況が少し明らかになってきた。以下、今回の調査成果を時代ごとに概観する。

弥生時代に属する遺構として、３・４・６号住居址をあげることができる。全体的に遺物の出土量は少なかったが、いずれも後期に属するものである。当該地区で弥生時代後期における卓越した遺跡は、本調査地から西北に500mほど離れた場所に展開する塚田遺跡である。塚田遺跡では36棟もの弥生時代後期における住居址が検出されたほか、石包丁の未成品が多く出土したことから、稲作を主な生業とする集団が居住した可能性が考えられる。恐らくは、遺跡西側の千曲川付近の後背湿地で稲作経営を行っていたものと思われる。本遺跡も南側に千曲川の後背湿地が広がっていることから、稲作を生業とした人々が居住していたのであろう。

古墳時代に属する遺構として、１・２・７・10・15・16・17・19号住居址をあげることができる。このうち、19号住居址は古墳時代前期に属するもので、町内でこれほど土器類がそろった状態で出土した例は無い。布留式段階の良好な資料として評価されよう。さらなる発見が待たれる。１～17号住居址は古墳時代後期に属するものである。当該地区で古墳時代後期における卓越した遺跡は、本調査地から南に800mほど離れた場所に展開する青木下遺跡である。青木下遺跡では土師器や須恵器を環状に配列した祭祀遺構が確認され、６世紀前半～７世紀前半にわたって断続的に祭祀が執り行われていたことが判明している。この青木下遺跡では祭祀空間の南側に居住地もあり、祭祀が空間的に身近であったことがうかがえる。大木久保遺跡においても同時代の集落が営まれていたことは興味深い。

古代に属する遺構として、11・12・13・14・18号住居址及び１号溝址をあげることができる。これらはある時期に固まって営まれたものではなく時間的に分散した状態で、およそ集落といった状況ではなかったものと思われる。

以上が今回の発掘調査から見えてきた、金井地区の原始・古代の状況の一端である。

写　真　図　版

大木久保遺跡Ⅰ完掘状況（西より）

1号住居址（南より）

2号住居址（南より）

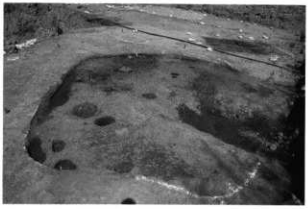
大木久保遺跡Ⅱ完掘状況（西より）

3号住居址（南より）

4号住居址（南西より）

5号住居址（西より）

6号住居址（南東より）



7 号住居址（南西より）

8 号住居址（東より）

9 号住居址（北西より）

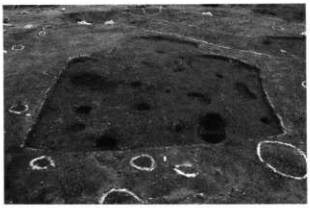
10号住居址（南西より）

10号住居址カマド（西より）

11号住居址（南東より）

12号住居址（西より）

12号住居址カマド（西より）



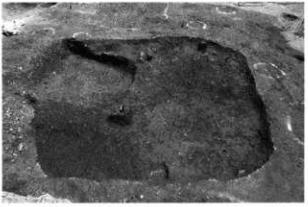
13号住居址（南より）

14号住居址（西より）

14号住居址カマド（西より）

15号住居址（西より）

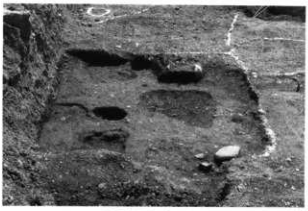
15号住居址カマド（北西より）



16号住居址（西より）

16号住居址カマド（西より）

17号住居址（北より）



18号住居址（西より）

18号住居址カマド（西より）

19号住居址（南より）

19号住居址遺物出土状況（南より）

1号溝址（北西より）

18号トレンチ（西より）

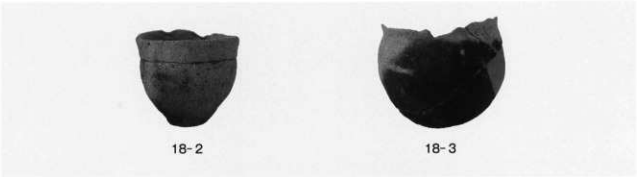
19号トレンチ（西より）

20号トレンチ（西より）

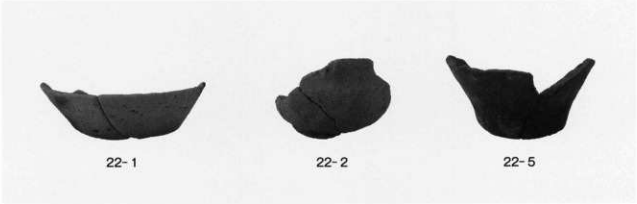
1号住居址出土土器（1：3）

2号住居址出土土器（1：3）

4号住居址出土土器（1：3）

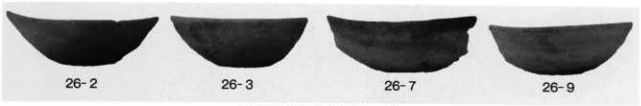


7号住居址出土土器（1：3）



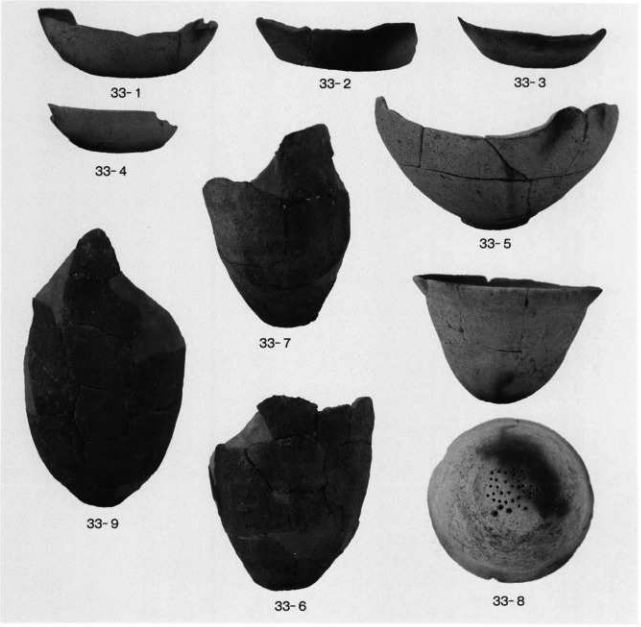
10号住居址出土土器（1：3）

11号住居址出土土器（1：3）

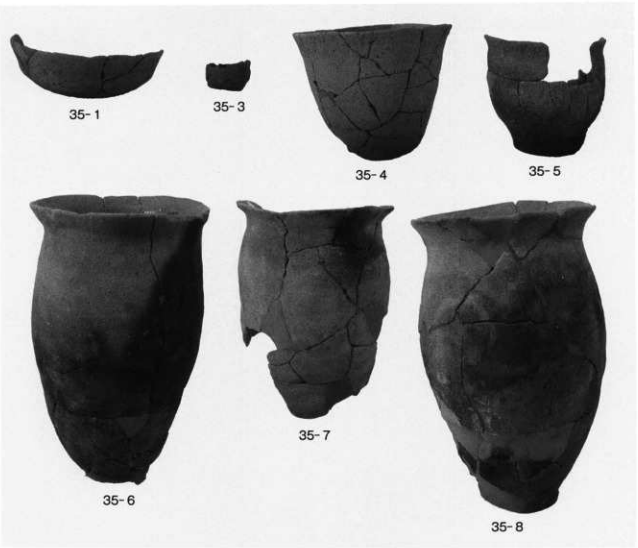


12号住居址出土土器（1：3）

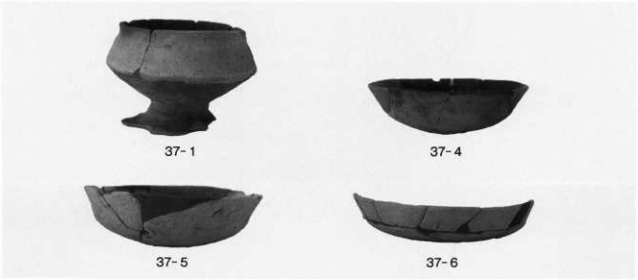
14号住居址出土土器（1：3）



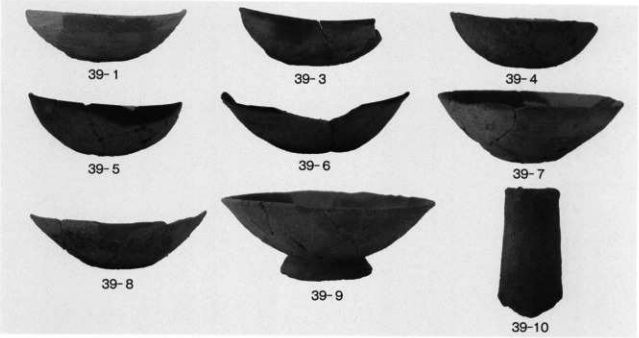
15号住居址出土土器（1：3・1：4）



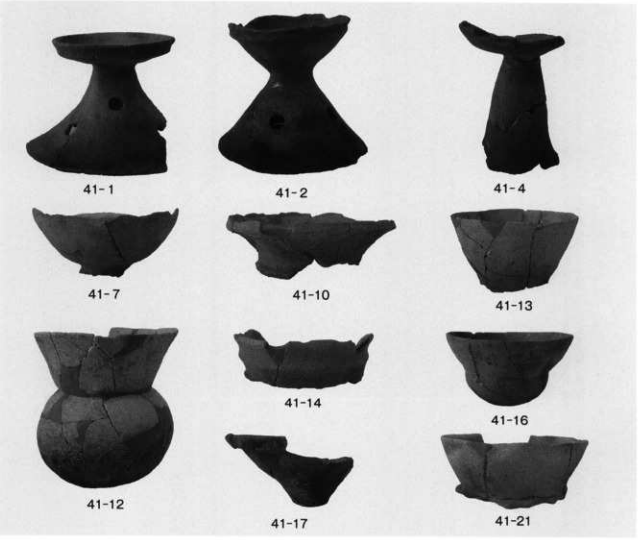
16号住居址出土土器（1：3・1：4）



17号住居址出土土器（1：3）

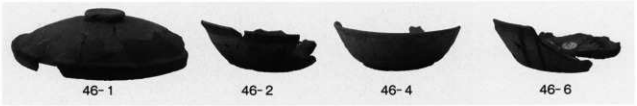


18号住居址出土土器（1：3）

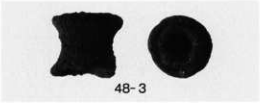


19号住居址出土土器①（1：3・1：4）

19号住居址出土土器②（1：4）

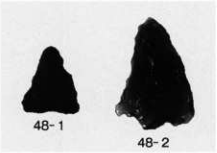


1号溝址出土土器（1：3）

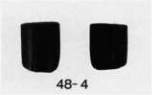


7号住居址出土土製品①（1：1）

10号住居址出土石器（1：8）



11号住居址出土石器（1：1）



1号溝址出土石製品（1：1）

1号住居址出土鉄製品（1：2）

報告書抄録

ふりがな	おおぎくぼいせきいち・に・さん
書名	大木久保遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
副書名	長野県埴科郡坂城町　町立南条小学校改築事業に係る緊急発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	坂城町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第46集
編著者名	時信　武史
編集機関	坂城町教育委員会
所在地	〒389-0601　長野県埴科郡坂城町大字坂城6362-1　　TEL 0268-82-1109
発行年月日	2016年３月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大木久保遺跡 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	埴科郡坂城町大字南条	20521		36°26′05″	138°11′37″	2014年３月３日～2015年12月10日	2,800㎡	坂城町による町立南条小学校改築事業

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大木久保遺跡 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	集落址	縄文～平安	竪穴住居址　19棟 土坑址　13基 溝址　1条	弥生土器・土師器・須恵器・鉄器・石器・土製品	弥生～平安時代の集落址の調査

坂城町埋蔵文化財調査報告書

	『開畝製鉄遺跡―第１次調査報告書』	1977
	『開畝製鉄遺跡―第２次調査報告書』	1978
	『東裏遺跡』	1983
	『中之条遺跡群　宮上遺跡Ⅱ』（概報）	1993
	『南条遺跡群　塚田遺跡』	1993
第１集	『南条遺跡群　東裏遺跡Ⅱ・青木下遺跡』	1994
第２集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1994
第３集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1995
第４集	『南条遺跡群　塚田遺跡Ⅱ』	1995
第５集	『豊姫堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』	1996
第６集	『中之条遺跡群　寺浦遺跡Ⅱ』	1996
第７集	『中之条遺跡群　上町遺跡Ⅱ』	1996
第８集	『上五明条里水田址』	1996
第９集	『町内遺跡発掘調査報告書1995』	1996
第10集	『坂城町試掘調査・立会い調査報告書』	1996
第11集	『町内遺跡発掘調査報告書1996』	1997
第12集	『戊久保・町横尾遺跡』	1998
第13集	『込山Ｂほか　発掘調査報告書　1997』	1998
第14集	『町内遺跡発掘調査報告書1998』	1999
第15集	『町内遺跡発掘調査報告書1999』	2000
第16集	『開畝遺跡Ⅲ』	2000
第17集	『中之条遺跡群　北川原遺跡Ⅱ』	2001
第18集	『町内遺跡発掘調査報告書2000』	2001
第19集	『中之条遺跡群　宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』	2001
第20集	『金井東遺跡群　保地遺跡Ⅱ』	2002
第21集	『町内遺跡発掘調査報告書2001』	2002
第22集	『町内遺跡発掘調査報告書2002』	2003
第23集	『豊姫堂遺跡Ⅲ』	2004
第24集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2003』	2004
第25集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2004』	2005
第26集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2005』	2006
第27集	『込山遺跡群　込山Ｃ遺跡Ⅱ・Ⅲ』	2006
第28集	『込山遺跡群　込山Ｄ遺跡Ⅰ』	2007
第29集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2006』	2007
第30集	『南条遺跡群　青木下遺跡Ⅱ・Ⅲ』	2007
第31集	『開畝遺跡Ⅳ』	2008
第32集	『町横尾遺跡Ⅱ』	2008
第33集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2007』	2008
第34集	『中之条遺跡群　上町遺跡Ⅳ・Ⅴ』	2009
第35集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2008』	2009
第36集	『中之条遺跡群　寺浦遺跡Ⅳ』	2010
第37集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2009』	2010
第38集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2010』	2011
第39集	『町横尾遺跡Ⅲ』	2012
第40集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2011』	2012
第41集	『中之条遺跡群　寺浦遺跡Ⅴ』	2013
第42集	『中之条遺跡群　山口遺跡Ⅰ』	2013
第43集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2012』	2013
第44集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2013』	2014
第45集	『坂城町内遺跡発掘調査報告書2014』	2015
第46集	『金井東遺跡群　大木久保遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』（本書）	2016

坂城町埋蔵文化財調査報告書第46集
金井東遺跡群　大木久保遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

発行日　2016年３月31日
編集者　坂城町教育委員会
〒389-0601　長野県埴科郡坂城町大字坂城 6362-１
TEL　0268（82）1109
印刷者　信毎書籍印刷株式会社
〒381-0037　長野県長野市西和田１丁目30番３号